

平成30年度第5回協働支援会議

平成30年6月28日（木）午後1時20分

本庁舎6階 第4委員会室

出席者：久塚委員、関口委員、及川委員、土屋委員、石橋委員、伊藤委員、吉田委員、
平井委員、加賀美委員、松田委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原主査、丹野主任、松永主事

久塚座長 定足数は満たしていますので始めます。事務局のほうから事前の説明資料などをお願いいたします。

事務局 では、本日の資料の確認をさせていただきます。クリップどめの資料のほうをごらんください。

まず、本日の次第でございます。

次に、資料1の①から②までが協働事業ごとの評価書になっております。危機管理担当部長は、①の評価書のみをご用意させていただいております。

こちらの評価書は、本日のヒアリングの中でご記入いただくなどご活用いただければと思います。コメント欄などもございますので、書式のほうは後ほど電子版をメールでも送付させていただきます。

最終的には点数でコメントをご記入いただきまして、7月5日までにメールで事務局までご提出をお願いいたします。

資料の2が、協働事業評価基準になっております。

資料3は、協働事業評価のスケジュールでございます。

資料4は、協働事業評価を行っていただく支援会議委員の名簿でございます。

ここで委員のご紹介をさせていただきます。資料4の名簿順でご紹介させていただきます。

まず、座長の久塚委員です。本日の進行をしていただきます。

続きまして、宇都木委員なのですがすけれども、本日はご欠席です。

続きまして、関口委員です。

続きまして、及川委員です。

土屋委員です。

石橋委員です。

伊藤委員です。

吉田委員です。

総合政策部平井部長はおくれていらっしゃいます。

地域振興部、加賀美部長です。

所属部の部長として危機管理担当部、松田部長です。

事務局 健康部長は地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト事業の際に出席させていただきます。

皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日ご欠席の宇都木委員の評価についてなのですが、昨年からヒアリングにご欠席であっても事業視察などをご参加いただいていますので、一律に採点をしないということではなく、本日の会議の様子を事務局で議事録を作成させていただきまして、そちらを欠席された方にはお送りし、その上でご採点いただくという方式をとらせていただいておりますが、今年度もそのような方式でお伝えさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

各委員 はい。

事務局 ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

それから、資料の確認の続きなのですが、別のクリップどめのもので、後半の地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト事業について、追加の資料がこちらでございます。

一つが、平成30年度協定書と契約書です。これ、事前にお送りしたファイルにはちょっと入っておりませんで、本日の机上配付となっております。

また、本日のヒアリングの説明資料も同様に本日配らせていただいております。こちら、青い付せんをつけさせていただいております。

それで、またもう1点、相互検証シートというものも本日机上に配付しております。こちらはちょっとファイルには入っていたものなのですが、内容をちょっと修正がございまして差しかえということになっております。

当日の配付資料や差しかえが大変多くなりまして申しわけございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

久塚座長 そろっていますね、大丈夫ですね。では、追加の説明をお願いします。

事務局 次第をごらんください。本日は、最初の10分程度事業の概要と実施状況について実施団体から説明を行い、事業課から必要に応じて補足説明を行います。

その後、30分間実施団体と事業課に対して質疑を行っていただきます。質疑の後に25分間、委員と団体と事業課の三者による意見交換をしていただきます。こちらを2事業分行っていただきます。

2事業終わりましたら、委員の皆さんで最終的に意見交換をしていただく予定です。

また、事業説明の際の資料なのですが、青い付せんをつけたものを中心にご説明させていただきます。防災事業のほうはファイルに入っているかと思います。プリントしたファイルに青い付せんの入っているページです。後半のごっくんプロジェクトのほうは、机上配付の資料のうち青い付せんがついた部分です。そちらを中心の説明となるかと思えますので、よろしくお願いいたします。

また、ヒアリングは公開とさせていただいております、後日ホームページにも議事録が掲載されますのでよろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上です。

久塚座長 ご説明いただいたのですが、1点、ヒアリングでいろいろ事業について質問をするというのと、それから最後の意見交換というのが少しわかりにくいので、ヒアリングについてはわからなかったところなどを聞くことが中心で、アドバイスみたいな形でこうしたらこういいねみたいなのは後の意見交換のところをお願いいたします。

どうしてもこうしたほうがよかったのではないのみたいなのがヒアリングのところに出てくるとちょっとあれなので、ヒアリングはヒアリングで一通りして、そして意見交換。微妙なのですが、それを少し意識していただければと思います。

(一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター・危機管理課担当職員着席)

久塚座長 では、事務局のほうから進め方の説明をお願いします。

事務局 本日は忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

進行順序を説明させていただきます。最初に10分程度実施団体から資料説明をお願いします。補足がありましたら所管課から補足説明をお願いします。その後、30分間団体と所管課に対しての質疑をさせていただき、質疑後に25分間委員と団体と所管課の三者

による意見交換をしていただきます。

説明は以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

久塚座長 最初に、事業の中身までについてはNPOのほうから。それで補足があれば担当課ということで、毎年一緒です。では、今から始めさせていただきます。

事業者 よろしくお願ひします。ピースボート災害ボランティアセンターの合田と申します。座って説明させていただきます。

それで10分間、まずということなのですが、基本的には先月事業報告会にお越しいただいているというような形だと思つので、ポイントとして1年目、2年目こういうふうな形で実施をしましたといった報告の概要みたいなことは、その際にお伝えできたのかなというふうに思っています。

きょう私のほうからは、その際にお伝えし切れなかつた、お渡しし切れなかつた資料が結構たくさんあるので、この資料はこういう内容ですというようなことをちょっとお伝えをして、逆に事業報告会ときには危機管理課のほうからのご報告をいただく時間がなかつたので、そのあたりを副参事のほうから危機管理課としての感想等々をいただくというような初めの10分間にしたいと思っています。

それで、皆さんのお手元のこの紫のファイルに、それぞれ報告書ですとかそういったものがまず出ていて、青い付せんのところから。こちらでつくっていた添付資料というような形になります。このあたりがちょっと資料が多いのでご説明したいと思います。

まず、青い付せんの1番目、資料1というものですけれども、今回の評価をいただくに当たって自己点検シートと、それから相互検証シートというものと、それから事業の進捗管理シートというようなもののその3種類というものが、一番よく見ていただいてご質問をこの後いただくのだと思いますが、進捗管理シートというのほうは出していないのです。それは地域コミュニティ課とのご相談の上で、ここの年間スケジュール表というようなものがそれに当たるものなので、これのほう細かいですし、こっちを見ていただければという話なので、資料1に関しては進捗管理シートのかわりになるものだというふうにごらんいただければいいと思っております。

この事業に関していうと、私たちのピースボート災害ボランティアセンターと危機管理課はもちろん中心的なのですが、それ以外に実行委員会ですとか、それから2年目の事業を実施するに当たって、その防災のことも要配慮者、特に障がい者等の要配慮者のテーマを扱いたいということで別途作業部会、ワーキンググループを実施してきました。

そして、担い手の育成事業ということなので、ボランティアの方々にコアになる運営ボランティアの方々、それから当日だけ手伝ってくださるボランティアだとかいろんな種類のボランティアを集めたので、そのボランティアが年間を通してどういったスケジュールで動いてきたのかというようなことが資料1にまとめてあります。

それから、資料2ですけれども、これは今度はイベントのほうです。9月3日に昨年実施をしました。おかげさまで1年目よりいただいた中で少しイベントの時間が長かったというようなこともあったので、時間は前後1時間ずつ短縮はしましたけれども、1年目よりたくさんの来場者におこしいただけたというようなことになっています。

そのたくさんの来場者の方々を受け入れるに当たって実行委員会ですとか、ご協力といったところからいただいたといったイベントとしての実績をまとめたものです。

そして、資料3は、その後ちょっと先のほうのページになるのですが、今度の当日配ったパンフレットの資料が、そこから約20ページ後ぐらいになっておりますけれどもあります。これと合わせて見ていただければというふうに思うのですけれども。

そのそれぞれ実施したプログラムに対して来場者の3,200人以上という方々がどこに参加されたのかといったところをまとめているエクセル表になります。

それから、資料4は、1年目の課題としてイベントに来場した方々からのアンケートをもう少したくさんとったほうが良いというようなお声をいただきましたので、2年目に関しては800名以上の方々からアンケートをとることができました。そのアンケートの中から一部抜粋というような形で、どんな方々がこのアンケートにお答えいただいたのかといったところ。それから、どのプログラムに参加したのか。それから、このイベントに参加したことが防災についての意識向上につながったのかどうかといったところの質問についてピックアップをさせていただきました。その他自由記述の部分というのをまとめさせていただきました。

それから、「実施のまとめ」というふうにして書いてある表紙の、これがちょっとボリュームが多いのですけれども、今度はイベントではなくて担い手育成、ボランティアに研修を行っていくというような、そういったプログラムのものをちょっと別途報告のまとめとしてつくらせていただきました。これも1年目のこの会議の中で、担い手育成部分について、9月に行うイベントで終わりではなく、その後のフォローアップも含めて地域の防災に役立つようにフォローアップをしっかりと継続的なものをしていってほしいというようなお声をいただいたので、どんなことをやったのかといったところと、それからその成果が、

各個人がどういった感想を持っているのか。そういったところをまとめさせていただきました。

主にはコアなボランティアの人たち、研修を10回近く受けていただいたコアのボランティアの人たちのコメントということなのですが、事業を実施していくに当たって、それ以外にも語学で手伝ってくださったボランティアの方々ですとか、先ほど言った要配慮者のためのワーキンググループの障がい当事者の方々もご参加いただいていた方々はかなりいろんな学びになったし、イベント当日も自分の持ち場を持って手伝えることができた、役割を持つことができたといった感想もいただきました。

それから、別のプログラム等の抱き合わせというような形で、東北の被災地出身の被災体験を持った若い子たちのトレーニング事業というのも、このしんじゅく防災フェスタで同時並行で実施をしましたので、そういった東北の学生たちの声というのも少し入れさせていただいたということになっています。

アンケートについてはイベントの来場者向けのアンケートと、それからボランティア向けのアンケートと別の2種類つくっていたので、ボランティア向けのアンケートの抜粋というのもこの中に入れさせていただいています。

そして、その次が先ほど言ったしんじゅく防災フェスタ2017の当日配布していたプログラムのコピーとなります。そして、その後が事業報告会で使わせていただいたパワーポイントの資料というような形でお配りしているというふうな形になります。

そして最後、その後ですけれども、しんじゅく防災フェスタ2018というふうになっているのは、今年度に入ってから動かしているものです。運営ボランティアの大募集というふうな形で運営ボランティア、コアなボランティアの募集自体は終わりました。既に20名定員だったのですけれども、28名かな。学生なんかもたくさん参加をしてくださっていて集まっています。既に研修も始まっているので、そういったものをどういったスケジュールで実施しているのかといった資料になります。

今たくさん募集しているのは、当日手伝ってくださいというボランティアということで、その次の1枚は当日のボランティアの募集のためのチラシ。

最後、カラーのものが1枚ついていると思いますけれども、3年目のテーマとして地域の方々との連携というのをもう少し引っ張りたいというようなところです。防災区民組織の方々なんかも含めて、もう少し一緒にできることを考えていこうというテーマを上げていましたので、それに関しては9月2日にことしはしんじゅく防災フェスタを、イベント

はやりますけれども、そういった別途7月8日、もうあと10日後ぐらいですけれども、その日に地域の防災受援力というものを考える特別フォーラムというのを実施する。この3年目はイベント二本立てというような、そういったイメージで実施することに決めましたので、そのチラシというものを入れさせていただいているということになります。既に80名ぐらいの定員までもう人は集まっているというような状態なので、あとは中身を、石巻市からのゲストをお招きして実施をしていく取り組みにとりかかっていますという状況です。

私のほうからはちょっと資料の説明というような形で、前回の事業報告会の内容と合わせて聞いていただければと思います。

久塚座長 補足がありましたら。

事業課 全般的に1年目につきましては、役割分担というところにつきまして、なかなかうまくいかないというところがあったのですけれども、2年目につきましてはそこら辺も解消いたしまして、全般的に順調にいったかなというふうに考えております。

また、毎年テーマを決めてやっているというところでもございまして、2年目は要配慮者をテーマにしたというところでもございます。なかなか危機管理課の単独では要配慮者の生の声を聞くとか、そういう機会がないというところでもございまして、そういった意味でも協働について効果があったのではないかとというふうに評価してございます。

以上です。

久塚座長 ありがとうございます。約30分ぐらいですか。ヒアリング、終わりは2時10分ぐらいで、その後意見交換とさせていただきます。

委員の方、どなたからでも順番は決めておりませんのでご発言をよろしくお願いします。

座長のほうからちょっと1点だけ。今、事業課からも説明があったのですけれども、1年目なかなか役割分担で課題があったけれども、2年目うまくいったというご発言があったと思うのですけれども、そういうふうによく流れるようになったというのは、どういうやり方というか、きっかけとか何かどうお互いにというのを具体的にありましたらちょっとお話しいただければと思います。

事業課 区としてのやり方というか、区としての事務手続の進め方等がある中で、また一方でピースボートさんのようにそういったことに縛られない方との意見のすり合わせみたいなものが、1年目はうまくいかなかったというところで、そういったところを重点的に電話なり、メール等頻繁に行うことによってそれが解消したということでした。

伊藤委員 かなりの方が参加されて非常にいいのですけれども、ボランティア団体といえますか。僕はボランティア団体だと思っているのですけれども、ここと子ども、ボーイスカウトやなんかがあるでしょう。そういう人の参加はありましたか。例えばボーイスカウトは結構資材を持っているのです。テントを持っていたりコップエルを持っていたり、沸かすバーナーとか。

それと、またもっとボーイスカウトのほかに少年消防団だとかというものもあるし、海洋少年団だとかあるし、そういうふうの一つのまとまっているものが区の中で動いてくると結構な力になると思うのですけれども、そういう点はいかがですか。

事業者 資料2の中に実行委員会、それから協力、協賛、ブース出展というような形で、8番、関係団体というようなところを一覧でバツと書かせていただいています。

その中で特に子どもや青少年といったところのお話を今ご質問いただいたのだと思いますが、ボーイスカウトに関しては直接という形ではないです。それから、消防団に関しては、新宿消防署のやったプログラムの中で、子ども消防団の人たちにも来てもらって自分たちの活動のPRですとか、あるいは呼びかけなんかもしてもらっているのです。そういったグループの参加はあります。

それから、ちょっとのここの中に直接書いてないかもしれないのですけれども、学校単位でイザ！カエルキャラバン！という子ども向けの防災プログラムというもののチラシを全区立の小学校にはまいているので、そのチラシを見て参加しましたという子どもたちが一番来場者としては多いです。小学生だけで来場者のうち半分ぐらいを占めていたりするので。

グループで動いた中で言うと戸塚第一小学校というのは、ステージでパフォーマンスをしていただく。吹奏楽の演奏なんかをしていただくというようなことがあったので、そういったところでまとまったグループとして小学生のレベルでは参加していただきました。

もうちょっと上のレベルになってくるとYMCAさんというのが、地域の高校生や大学生なんかを結構集めているグループなので、そのYMCAさんなんかは高校生や大学生のボランティアをまとめてカエルキャラバン！のボランティアグループとして動いてくださったというのがあります。

そのほか当日のボランティアなんかには、高校生も結構たくさん区内のボランティアの人たちが参加をしてくれていたというような形だったりするので、まとまったグループで言うとYMCAさんとか戸塚第一小学校とか、子ども消防団とかというような形になるの

かなと思いますけれども、それ以外に来られた来場者の中にはどこかのグループに所属しているというような人たちはたくさんいると思っています。

伊藤委員 そういうふうに区内にあるボランティア団体というか、そういうのが参加しているということは、結構実際の場になったときにやっぱり力強いですね。

あともう一ついいですか。対象別のボランティアとあるのですけれども、1年目と2年目。1年目219、2年目が350なのですけれども、この中で1年目に参加して2年目にも参加している。そういう人はどんな人数でいるのでしょうか。

半分ぐらいが1年目は参加して、2年目もその人たちが同じところに参加しているとか、全く1年前に参加した人はいないですとか、そこら辺をちょっと知りたい。

事業者 すごい人数はふえていると思うのですけれども、そのボランティアというものの考え方の中に運営を手伝ってくださる。受付をやったりだとかそういったボランティアもいますし、このイベントを通じて研修をするというような、学ぶというようなことも含めてとか、体験するということも含めてボランティアというふうに少し広くとっていたりだとかするので、2年目に関しては新宿区社会福祉協議会のほうで、災害時には災害ボランティアセンターというようなものを立ち上げるということが、区と一緒にやっていくというふうなことがあるので、その訓練というのをやったので、そこに80人から90人ぐらいのご参加があったので、それも入れています。

なので、3年目に関してはイベントでその設置訓練、ボランティアセンターの設置訓練というのは今のところはやらない予定なので80人、90人ぐらい2年目だけちょっと特殊なボランティアの人数が乗っかっているというふうに思ってください。なので、200名強ぐらいが、大体ボランティアというのがあるのですけれども、その中でのお話だと思っています。

伊藤委員 そういうことではなくて、例えば運営ボランティアとあるでしょう、1年目21名、2年目20名です。このうち1年目に来て、2年目にもその部分に参加した人はどのぐらいいるか。

事業者 それは2名です。その2名の方は、ことしの運営ボランティアにも参加していただいている、3年連続という形になっています。

伊藤委員 大体各この語学ボランティアでも何でも大体そんなものなのかな。

事業者 そうです。当日ボランティアに関しては、その日1日のみの活動になるので、継続して参加するという形。1年間あいてしまうので、あまりいらっしやらないですけれ

ども、大体1から2名くらいは継続しています。

あと当日ボランティアに1年目参加したので、2年目はもう一つレベルを上げて運営ボランティアになりますとか、同じ今カテゴリーだけのお話をしたのですけれども、カテゴリーが上がりましたという方々もそこに同じぐらいの人数は上がっていますし、運営ボランティアに去年は参加した。研修は基本的にも受けましたという方が、ことしはもう研修自体はわかったので、ほかのところで活躍しながら、当日はでも手伝いますということで、当日ボランティアへのお申し込みとかいうのもあったりするので、今言った一、二名みたいなのは、同じカテゴリーでの継続だけの話なので、そこが立場は違う形のボランティアなのだけれども加わっていらっしゃるという方は七、八人。

久塚座長 そうすると2年目の350名のうち1年目の219名と、立場は変わっても一応重なっている人というのは幾らですか。

事業者 多分20名から30名ぐらいという形かなというふうに思います。1年目で当日ボランティアの運営ボランティアの方々が、2年目は先ほど言った災害ボランティアセンター設置訓練にご参加されたという方も多分10名ぐらいいらっしゃるような気がする。何かしらというような形ですから、毎年同じかかわり方ではなくて、違ったかかわり方でご参加をいただいている。

久塚座長 それは結構なのですけれども、伊藤さんは多分同じところのを聞いているのではなくて、位置が変わっても2年目、違う立場でボランティアと出たのは何人ですかとつかんでいますかという質問に近かった。

事業者 ちょっと細かくそこまで出し切ってはないかなと。二、三十名ぐらいのカウントだと思います。

石橋委員 四つあるのですが、簡単に一言ずつでも回答をいただければと思います。まず、一つ目が、最近ありました大阪の地震。あれに関しましては同じような地震が、今回思いのほか被害は、建物の中とかはなかったのだと思うのですけれども、それに対してこちらの活動が重ねた部分でどう貢献できたかという、もう本当に一言で結構です。

二つ目、今メディアもテレビよりもネットだったりということで、マスではなくて多様性かなり広がってきていると思います。そういう意味では年に1回の大きなイベントよりも、各地域ごとで小さな活動というのが重要になってくるのかなと考えています。そういう意味では、今回3回目の課題に添えた町会との連携ということを上げていらっしゃるのが重なるのかなと思うのですが、私も町会をいろいろやっているのですが、バラバラな

のと年配の方ばかりというのでかなり手ごわいというか、そういうところを具体的にどう活動に生かしていかれると考えていらっしゃるのかというのが質問と、最後に今回事務所が新宿区ということで新宿区の活動としていただいておりますが、そういう意味では新宿だけではなくて東京都という、そういった大きな活動のほうがよりいろんなバリエーションがあって、必要な項目というのも出てくると思うのです。そういうお考えはありますでしょうか。

事業者 わかりました。まず大阪地震の話ですけれども、私たちの団体はこの日ごろの防災という活動もしていますけれども、被災地の支援というのにもかかわっている団体です。今も、スタッフが現場に行っています。

おっしゃられたように被害がそんなに、建物被害みたいなのがドンと出たわけではないので。ただ、目に見えない例えば障がいを持っていらっしゃる方の困り事だとか、そういったものをきめ細かくやろうというのが、大阪の現場の団体と意見交換なんかを今しながらやっています。私たちの団体自身は被災地の支援はやっていますけれども、被災地の障がい者支援とか、そういったところにあまり特化してやったことがなかったのですけれども、2年目に要配慮者のワーキンググループを通じてやってきた学びなんかはすごく生きていて、その現地の障がい者団体なんかは災害のときに動くといったところの情報をいただいたときに何が困っているのだろうかとか、そういったものはだいぶわかるようになりました。非常に勉強になったので、そこと一緒にできる活動なんかはふえただろうなというふうに思っています。

石橋委員 ちょっと1個教えてください。障がい者とあとお年寄りというのは別物？人数的にはお年寄りのほうがかなりボリュームがあって、かなり大変な部分もあると思うのですが別物なのですか、対象者は。

事業者 重なって、高齢で障がいもお持ちの方とかというのはたくさんいらっしゃって、そのほうが大変だとかというのはあったりするのですけれども、基本的には去年は障がい者の当事者とそれから支援の方々と一緒にやったのは、ボリュームはかなり多かったというのが正直なところなので、高齢者の方々もどうしようという話はあったのですけれども、特にイベントが9月でもものすごく暑い時期なので、そのときに高齢者の方々、特にたくさん出てきてくださいとあまり言い過ぎるのもというのが、その作業部会をやりながら出てきた案で、なので元気な高齢者の方々にはぜひなのですけれども、どんどん行きましょうという呼びかけをちょっとブレーキをかけて、少し障がい者のほうに方向性を振ったとい

うのは去年に関してはあったというところは正直なところ。

ただ、高齢者に関してというのが大事なテーマだし、ボリュームが大きいというのも把握はしている。

事業課 2点目につきましては、私のほうから小まめな展開ということでお話いただきまして、確かにそういったものも有効だというふうに私も考えているのですが、実際に各地区で、今51カ所の避難所でもう毎年一応防災訓練をやっているというところまでございまして、これは委員のおっしゃるような防災の展開に当たるかどうかというのはあれなのですけれども、ただそういったほうにつきましても、やはり各参加者の高齢化であったり、担い手の偏在化だったり、そういったものを課題を抱えております。

そこら辺をどうしていくかということではいわゆるお子さん、小学校の避難所、中学校の避難所というところで、小学生も参加を促して、それが例えば公開授業とかでお招きがあれば保護者の方も一緒に参加してもらおうような形で、将来的な地域の担い手なんかを育成につなげていくというような形で、何とかして育成していければなというふうには考えております。

ですので、そこら辺を細かに展開をしていって、その中でその一つとしてこの防災フェスタという区が大きな形でというふうな形で現在は考えているというところがございます。

事業者 3番目。東京都の話、まさにだと思います。まず日本の災害対応の体系というのが、基礎自治体中心に動いていくというふうになっているので、私たちは新宿に事務所を置くということで、首都直下があったときにまず新宿での対応ということができるようになるようにピースポートとしても考えているというのが大前提で新宿区との取り組みとか、そこをなしにして東京都とやっても少し上のそらの話になってしまうかもしれない。まず足元をやるということが第一でした。

例えばこの防災の日に近いところのイベントなので、1年目も2年目も3年目も同じ日に東京都の総合防災訓練というのが実は実施をされていて、なので東京都のほうに実はスタッフがかわれないというようなこの3年間とかというのはあったので、なので新宿でやることというのを一つこの3年間でやった上で、4年目以降がそのしんじゅく防災フェスタをどの時期にやるとかというのは、まだ話し合いがされているわけではないのですが、そういったものが重ならなければ東京都とできることみたいなことも含めて考えていかなければいけないなとも思っていますし、防災に関して言うと内閣府といったところがやっているのです、その内閣府とは私たち単独ではなくてNPOの共同体というような形

でおつき合いをしていますので、そういったところで全国的な動きでもとれるものというのも合わせて考えて、ちょっと協働事業のこの枠組みとは外れてしまうと思うのですけれども、そういったことも合わせて動いていくというようなところだと思います。

石橋委員 最後のお話を受けて一言で。実は私、町会から東京都の防災リーダー研修を受けて、対象は東京都全体というのがあったのです。本当に地域差がすごくあったというのも実感なのと、そういう意味ではイベントであると先ほどおっしゃったみたいに重なるのと、イベントに来る人というのはお元気な人で、そういう意味ではボトムアップをするという意味では、イベントに来ない人をどうやって意識づけるかというほうが実は大事なのかなというものを常日ごろから考えていまして、そういう意味ではちょっと活動のニュアンスというのは少なくなっています。

久塚座長 そのようにおっしゃっているのですが、逆に新宿区だけでやっていたり、あるいは東京都だけでやると、新宿区の事業なので何で全体でやるのですかという質問に変わってしまうのです。

石橋委員 そうですね。

事業者 なのでちょっとそのピースポートとしてやっている全体の事業と、この協働事業でやっている事業と両方ともお答えせざるを得ない。

久塚座長 そう。だから、新宿区のお金でやっていて、何で東京都というか全国でやるのですかという逆の質問が、余り広げると出るわけです。

そこの重なる部分であるとか、災害というのは東京都、あるいは全国で関係するのだけれども、新宿の独特のバージョンというのは何ですかというふうに聞かれると答えが違った答えになる。だけど、質問がああいう形だったので、答えるときつらかったと思います。どんどん広げて見えていますと言われたら、次の委員が広げると言うけれども、これは新宿区の事業ではないのという話になってしまいます。

及川委員 ちょっと先ほどの質問とかぶってしまうのですけれども、コアボランティアのことでお伺いしたいのですが、20名で2年目は少しダブっていらっしゃる。そうしたら3年ですと、今は何名いらっしゃるのでしょうか。3年目も20名の活動を足すようなイメージでコアボランティアは考えていらっしゃるということでしょうか。

3年間で一体どれぐらいのコアボランティアが育成できるのかなというのが、多分ちょっとイメージができていなくて、イベントとして見ると単純に担い手育成事業として換算したのは、イベントのほうは同じなのでなると思うのですけれども、その当時の担い手の

ほうが一体どれぐらい目的に対して達成できたかなというイメージがちょっとつかめないもので、20、20、20で60名ボランティアが1年できたと。

果たしてそこが新宿区のたくさんの人の中でどれぐらい助けになるのかというのが少し不安な点もあって、60名で終わりでもう目的が達成されたとお考えなのか。それとも、その後の事業展開なども考えていらっしゃるのかという。このボランティアのことをもう少し詳しく教えてください。

事業者 まずボランティアのこと。

初年度と2年目は20名ずつということで、今年度も20名は定員として募集はしているのですが、結果としては28名のコアボランティアが集まりました。そのうちの5名は去年からの継続。さらにその5名の中のうち2名は、3年間継続して参加していただいているボランティアさんです。なのでトータルで65名くらいのボランティアさんは研修を受けたということになるのですが、先ほど継続してボランティアの中にはステップアップしているという話があったかと思うのですが、今まで参加していたボランティアさんの中には、自分の地域だったりとか、大体持ち帰ってさらに伝えていきたい、教えていきたいみたいな。というような意見とかもあったりするので、そう考えると65名プラスアルファというのは、少なからずいるのではないのかなという。そこまで詳しくは、人数とかまでは調査していないのですが、いるのではないかなとは思いません。

久塚座長 だから、イメージとしては人数を、そこでとめていても、2年目をやったり、3年目をやったりという人が出てくると、それを延べの人数みたいにすると広がりつつあるみたいなイメージでとらえていいのですよね。

事業者 そうです。

土屋委員 今のちょっと続きというか、ボランティアの年代別を見ると、若い人の10代、20代が半数以上いるのです。せっかくここまで育てたその60何名のコアボランティアの方々が、若い人は結構定住しないで新宿区ではなくていろんな地区に行きます。今年度でこの事業は終わり、新宿区としての事業は終わりになるのですが、その後のその方々へのフォローとかサポートをこれからどういうふうにしていくかというようなことはどのように考えていらっしゃるか。

事業者 まず一つは、フォローアップに関しては必要だというふうには思っているのですが、個人情報の取り扱いのやり方として、その年度で切るというふうに原則して

いるのです、次の年のボランティアの募集を呼びかけた段階で。ピースボートのほうで名簿を管理するというよりは、この事業として管理するという別名簿にしていたりだとかするので、例えば3年後にその名簿をひっくり返して連絡するとかいうことをしないというような形でボランティア登録にはしていただいています。

それはもうちょっとしょうがないところがあるかというふうに思っています。なので、その1年間が終わるときにその人、それぞれの所属先とか、その次の活動というのを何かしらに生かしてくださいというのを呼びかけをしていっているというようなことで、一番わかりやすいので言うと社協さんの災害ボランティアなのだと思います。

1年目の運営ボランティアの方々の11名とかは、社協さんの災害ボランティア登録とされているのをされていて、災害が起こったときにはその災害ボランティアセンターというものの運営を職員の方々、行政の方々、それからNPOの応援を含めて一緒にやる。そういった流れで2年目は、そのセンターを実際に運営してみるための訓練に移ってみたいということなので、コアボランティアの人数とは違いますけれども、実際の災害時に動ける人という意味では、その災害ボランティアセンター設置訓練に参加された。職員も含めてですけれども、80名、90名とかいう方々というのは、コアボランティアの実績の数字60数名とはちょっと違うところですが、かなり動ける人たちというのが生まれているというふうに認識をいただいてもいいのかなと思います。

それから、ボランティアの災害のときに動けるみたいなのが本当に人によってレベルはバラバラなので、まず自分の身を守るとか、家族の身を守るということもすごく大事。子どもたちとかは、おもちゃの交換ができるからと来るのですけれども、実際に防災の体験のプログラムはたくさんあって、こんな学びがあった、おもしろかった、お父さん、これ、やっていないじゃないかと家に帰ってすごく話しているのです。

それは家族の方々に、じゃあ、家具の転倒防止をしようとか、備蓄をつくっておこうとか、そういった効果というのは生まれていると思うので、それが災害のときに人助けのためのボランティアに登録して動くというのとは違うかもしれないですけども、被害が少なくまずなれば。それだけ活動というの、ボランティアの活動とかNPOの活動に集中して見ているところというのは見つかるので、被害を少なくするというためには、子どもたちというのが家に持ち帰ったというのかなり大きな影響が実際するときには出てくるだろうなというふうなことは思っています。

それから、あと実行委員会に参加していただいている団体の皆さんは、災害のときに何

かしらの対応をしなければいけない、やるべきだ、私たちはそれに対して動くべきだと思っ
ていらっしゃる団体にお声かけしてきました。なので、ここの見える関係というのが、
災害のときにその民間の災害対応ネットワーク。行政との連携をとるといような災害対
応の民間側の動きの顔の見える関係というのを築けて、この団体はこれが得意、うちの団
体はこれが得意とかというのはかなり見えたし、どこの地区で動くとかというのがわかっ
たのは、それはすごく大きな成果だったなというふうに思っています。

なので、個人のボランティアだけではなくて団体が力をつけたというのは、共通認識を
持ったというのはすごく大きかったなというふうに思っています。

事業課 区のほうとしてそういうことをするかどうかということにつきましては、先ほ
どのボランティアセンターのところについてはそう思うのですけれども、やっぱり
避難所でそういったボランティアをしていただくというふうなご意向があればつなげてい
くというふうなことはあるかと思うのですけれども、一般的にはちょっと難しいのかなと
いうのが正直な感想です。

久塚座長 時間になったので、ご質問というか意見交換。意見交換に近いようなヒアリ
ングの中身も今でもありましたので、これから先は委員の方たちは、ここはこうしたほう
がよかったのではないかを含めてご発言されてください。もちろんヒアリングというか、
質問でも大丈夫ですので。

松田委員 実は新宿区内にはNPOさん等々災害系のそういう担う有名なNPOさんが
たくさんありまして、社協のほうでボランティアセンターを運営をするというたてつけに
なっているので、そういう区内のNPOさんに集まっていたかということもやっている
のです。

なので、正直言って世界的に有名なピースボートさんであるとか、シャンティさんとか、
サクラユニオンさんとかそういう意味では新宿に事務所がいっぱいあって、私としては非
常に心強いというか、ありがたいというか、そういう思いをしております。

ただただNPOさんから言えば、別に新宿に事務所があるから新宿を助けなければです
よというのが正直あって、やっぱり災害がひどいところに自分たちは行くのですという
ところなのですが、でもやっぱりそうは言ってもありがたいというような部分で、今回の協
働提案事業にピースボートさんが手を挙げていただいてボランティアセンターの、社協の
枠組みの中にはいるのですけれども、うちと一緒に事業をやることによって顔つなぎとい
うか、もう被災地の支援の経験が豊富ですので、いざとなったら新宿を助けてくれるとい

うふうに心強く思っている部分があります。

ですから、ことしで3年目、最終年度になりますけれども、また来年度以降もぜひ引き続きいろんなおつき合いでやっていただければありがたいと、そういうふうに思っております。さっきも都だとか国だとかというレベルもそうなのですけれども、やっぱりそういったところで我々としてはそういったところとおつき合いをしていきたいなど。

久塚座長 そうですね。たまたま住所地がここだからという話ではなくて、ということです。ただ、そういうことで言うと、ここの協働支援というものの制度が持っている新宿区が拠点になっている。もともと広げていますけれども、あるいは対象を新宿区民というふうな縛りの中で動かすのは非常につらいだろうなと思いますけれども。

松田委員 そうですね。ただ、本質を事業としてはそういうところがあって、副次的な効果で先ほど私も申し上げたような効果をちょっと感じているというか、そんなイメージです。

土屋委員 私は去年も当日ボランティアで参加させていただいて、それでまた社協さんもボランティア登録させていただいているのですけれども、すごい防災フェスタは中身が濃くて、参加型の体験型のももあって、子どもたちもすごく喜んでいろんなことを学んでいるのです。

今年度は地域団体との協働でしたか。地域の防災区民組織との連携ですけれども、今、町会、自治会が中心で避難所の設営訓練とかやっていますけれども、これはちょっと危機管理課のほうに申し上げたいのですけれども、その普通の避難所訓練、設営訓練なんかよりもずっともうレベルが高くて、うちの小学校は本当に学校公開のときに小学生とお母さんたち、お父さんたち一緒に避難所設営の訓練をやっているのですけれども、もうそのぐらいのレベルで避難所訓練をやらないと、高齢者の方が集まって、さあ、仮設トイレをつくりましょうとか、そんなことをやっても余り実際のところちょっと動けないことが多いので、かなり参考にさせていただきたいなど。

ずっと学校公開でもやっているのです、町会でも。ああいうやり方というのは、本当に子どもたちもすごく積極的に参加するし、あとお母さんたちが自分がどこの町会に属するかも全然わからないのです。そのときに来て、住所を言って、初めてここの町会だというのがわかるのです。避難所訓練、設営訓練はその程度なのです、町会とか住んでいる人、住民の意識というのは。

だから、やっぱりちょっとレベルアップしたものをやっていただきたいなど、行政に対

する思いです。

松田委員 避難所訓練もそうですし、こういう全体的なものもお互い補完し合っとうところでしょうか。

土屋委員 ええ、ええ、せっかくだから防災フェスタで子どもたちの意識も上がったのに、生かすところがないとちょっともったいないので。

久塚座長 そういう意味だよ。だから、ご意見というか、もう中身としてはこういうことですごく上がってきているのをどう生かしていくのかなということも少し念頭に置いてやっていただければなというご意見です。

松田委員 本当に区民のほうがおっしゃるようにお年寄りだけ集まってきて、若い方がなかなか参加できないという中で、こういうイベントで若い人たちも取り入れていこうというところですので、両方おっしゃっていただいたようにかみ合うようなことをまた考えていきたいなど。

及川委員 先ほどのボランティアのことなのですけれども、有償にしてもう少し人数をふやすというようなアイデアはどうなのと思っているのですが、ピースボートさんのほうではボランティアの方がたくさん集まるような今までの経験で意識が高い方が多いのではないかなと。区民としてはボランティアの方は実際に被害が起きたときにあちこちにたくさんいてくれると助かる。ボランティアの方のアンケートを見ますと、すごく満足感が高いということで拝見させていただいたので、勉強を含めてこの復興ボランティアを体験していただいた方に少し有償で参加していただいてふやしていく。倍々でふやしていくというのはどうかなという意見を一つ。

もう一つ、先ほどの避難所のことなのですけれども、イベントに関して土屋さんがおっしゃったように最寄りの避難所コーナーというのを作っていただいたらどうかなと考えた。土屋さんがおっしゃったように同じ地区でどこの避難所に行くのか。マンションの方とかがわからないというようなことが学校のほうからも回っていて、町会からもそれがわからないというふうなことが上がっているようなので、せっかくイベントに来てくださった方に、あなたの避難所を探しましょうコーナーとか、そんなのがあったらちょうどニーズに合うのかなというふうに思います。

個人としては、私も自分がどこの避難所に属しているというのではなくても、そのとき、その場で避難できるところに、だれでも行けるようなイメージであったほうが、私としてはちょっと助かるので、だれもが同じ指定避難所に行かなければいけないというのはちょ

っと個人的には抵抗があるのですけれども、地元としてはだれが避難所に属しているのかわからないという声もあるので、せっかくのイベントでそれを提示していただけたらちょうどいいのかなと思います。

避難所体験コーナーのほうでいいんじゃないかと思いますがけれども。実際に段ボールのベッドがこういうふうにあるのだとか、トイレはこんなふうなのだというのをもうちょっと具体的に展示していただいたら、東京の防災訓練に行かない委員さんでも、トイレはこんななのだねということも体験できるだろうと思います。

あと最後に小さなボランティアコーナーみたいなのもつくっていただけたら、子どもたち、ボランティアはやりたいとは思っていても、なかなかこういうことがボランティアになるのかというのがわからなかったりするので、そういう提案などがあつたらいいんじゃないかなと思いました。

久塚座長 ご意見なので、ご意見があつたものについてご回答というか、回答する部分があつたらどうぞなさってください。

事業者 3年目のイベントの中で取り入れることができればというお話と、ボランティアの話と何か2種類になるのかなというふうに思っているのですが、避難所に関してはやっぱり防災フェスタ、イベント全体を見ても、ちょこちょこそれに関するようなことというのにはなっているのですけれども、ザ・避難所みたいなプログラムが設けられていた、展示が設けられているわけではないので、ちょっと考えてみてもいいかなと思います。ちょっとスペースとかの問題はあつたりするのですけれども、取り入れられるものがあればやってみようと思います。

一方、避難所だけではなく在宅避難みたいなことも選択肢に入れておいてほしいというのは新宿区としてはあつたり、避難所に全員来られてもそれはそれであふれる問題というのが、やっぱりこれだけ人口がいればあるので、そういったものと多分両方とも見せる必要があるのかもしれないなという気はしているので、何かちょっとできそうなものがあればというふうに思います。

それから、ボランティア、小さなボランティアコーナーのほうで言うと、イザ！カエルキャラバン！は実はそうなっていて、この人数には入れていないのですけれども、そのおもちゃ欲しさというのが1個あるのですけれども、ポイントが欲しいので防災プログラムに体験してうまくできるとたくさんポイントがもらえるのもそうなのですけれども、受付を手伝ったとかというのでもポイントがもらえるのです。なので、そこが実は結構小学生に

としてはボランティア体験コーナーになっていたりはするので、ちょっとこの数には入れなかったのですが、イザ！カエルキャラバン！に来た1,000名以上の小学生のうちちょっと受付をやりましたとか、ほかの小学生の誘導を手伝いましたとかという子は結構いるのが、そこがやれているのかなというふうに少し思います。

有償ボランティアについては、ちょっと悩ましいところなのですが、例えば彼女は1年目の当日ボランティアです。その後新卒で入ってきて、今では新宿区の災害対応でバリバリ頑張ってくれるだろうというふうなことがあったりするので、そう考えると何か有償ボランティアというよりはそれなりにNPO、NGOにたくさんいるといふように松田さんのほうもおっしゃいましたけれども、そういったところに行くとか、もう退職されている方だったらそれこそ社協さんの登録をされるだとか、そういった自分が動くときに個人で動けるのはやっぱり制限があるので、やっぱりチームで動けるところにどこかしらに入っていくみたいな、そういったことはいいなと思っています。

特に若い子なんかは就職とやっぱりセットになっていく話だったりするので、まだまだ日本のNPOは新卒で人をとるみたいなのがほとんどないですから、そういったところなんかができていくのと同様でこたえられていくといいなと思います。

事業課 今ちょっと避難行動につきましては、在宅避難というところで建物が大丈夫であれば自宅にとどまっていたらいい、倒壊してしまって住めなくなって避難所というところで、そういった面についてはよりここをちょっと皆さんのほうに周知をしていく必要がありますので、そういった面についてはちょっと工夫をしていきたいと思っています。

石橋委員 先ほどのご回答の確認1点と、あと先ほどの私からの質問の補足の2点あります。

ご回答の確認というのが、お子さん方がイベントの後、自宅に帰ってご家庭で意見があって効果があったというのがあったのですが、実際アンケートというのは帰るときのアンケートかなと思っていたのですが、そうではなく、帰ってからそういった影響力があるというのはどういう感じで把握されているのでしょうか。

事業者 おっしゃるとおりイベント当日のところのアンケートでこれは聞いた声とかそういうことなので、帰ってからというのはちらほらその当事者たちに会ったとか、そういうことはありますけれども、イザ！カエルキャラバン！のプログラム自体がものすごく全国的にやっていて、プラス・アーツさんという団体が手がけられているのですが、プラス・アーツさんのほうはいろんなところでやったものをフォローアップでやっていら

っしゃるので、その成果でこういうふうになるよというのがどこの地区でもある程度はというのがあるので、それは新宿区だけ当てはまらないということはないなというのはあります。

あとカエルのもらったポイントというのは翌年に持ち越しもできるのです。なので、翌年に、1年目にポイントを持ってきて100ポイントのおもちゃと交換せずに翌年200ポイントのおもちゃをもらいに来た子がいるとかというのは、去年参加した子がもう1年間それをねらっていたみたいなの話なのです。そういう子が結構1年目よりもその商品の値段が、ポイントが上がって。競り、オークションというのがあるのですけれども、そこが上がったということが継続して参加しているねとか、それで100ポイントと200ポイントはかなりプログラムに参加していないとももらえないポイントなので、そこがそういう効果になっているとかというのは、少し離れたところからですけれども把握するみたいな。そういうプラス・アーツさんのノウハウの中で教えていただいているものが多いです。

石橋委員 多分そういった防災だけではみんな積極的になり得ないところが、そういった工夫というのは、こんなことをやっているというのは、さらに下のほうに教えていただけるとすごいアイデアだと思うので参考に、地域のほうにご指導いただくと効果的なのかなと思います。

あと補足というのは、新宿区だけではなく東京都というので申し上げたのが、ちょっと本当に言葉足らずで、座長のほうからも補足でも改めて思ったのですが、今回新宿区の助成金というのがあってもきょうの会議ではあるので、先ほど部長もおっしゃったように、実際に何かあったときは新宿区だけではなくて被害が大きいところを優先していく。もうそれも当然のことなので、そういう意味ではお金の話で恐縮なのですけれども、新宿区の助成金というよりも例えばとりあえず東京都。都市でいろんな通常の災害よりもいろんな被害は起こるかもというので、東京都という視点で見ていただいて東京都でやることという形の活動というのはどうなのでしょうという部分が質問だったのです。

なので、そういう意味で所在地が新宿ということで今回はそういうことなのですけれども、そういう意味では全体を見ていただくということで、東京都というのは対象で、東京都の助成金というお考えはということが本当は質問したかったのですが、ちょっと言葉があれでした。

久塚座長 よろしいですか。ということだそうです。ほかの委員の方。

関口委員 順調に進んでいると欲が出てきてしまうので、4年目があるとしてのご意見

を伺いたいところがありまして、やっぱり大阪の地震でも大阪は最近インバウンドの観光客が非常に大きくなっていて、外国人の方が情報過疎ですごく困っていたという話とか、あと結局通勤時間帯にドンピシャで当たってしまったので、あれだけ東日本大震災のときに言われておきながら出社を強要された会社員の方々が結局帰宅困難になるという。だれが見ても明らかな結果を招いてしまっているということがあったと思うのですけれども、多分この数年間で最悪想定というのが、オリンピック期間中に首都直下地震ということだと思っておりますが、そういったことがあるとやっぱり当然来場されている、来日されている方々がたくさんいらっしゃるということで、新宿区は国立競技場もありますし、いざというときにはいわゆる住民の夜間人口の方々だけではなくて、いっぱい来ていらっしゃる方々をどうさばくかということが非常に重要になってくると思うので、はっきり言ってそれはもうボランティアでどうこうというよりは、もう自衛隊とか、もう相当な陣営を動員してやるべきことなのかもしれないのですけれども、我々で何かできることもあるかもしれないということで言うと、例えばテーマとしてそういうインバウンドの観光客の方とか、そういうのをちょっとお迎えするに当たって2020年でどうやるかというのは、ちょっとまたサブテーマとかで考えていただくとか、そういうのをちょっと。

実は今年度の協働事業提案の募集の中でも区からの提案であったと思うのですが、それはそれで何か機運の盛り上げみたいなやつでしたけれども、防災面でもいざ本当に何か起こってしまった場合、期間中に。どう我々が新宿区民として、あるいは東京都民として、日本国民として、せつかく日本に来てくれて大変なことになるというのは非常に申しわけないので、どうかしないといけないなと思っているのですけれども、自分自身がそんなノウハウも何もないので、ぜひピースボートさんとかはどういう何かお考えがあればお伺いしたいなと思っております。

松田委員 それは私のほうから。帰宅困難者というのは東日本大震災のときに非常にクローズアップをされて、それ以降国とそれから新宿区なんかが中心になって対策を進めています。それで、新宿は新宿駅が世界一のターミナル駅、370万人の乗降客というところでもないところですから、帰宅困難者対策の日本のメインのところになっていて、この西口、東口の企業の方が集まって、駅周辺対策協議会というのをつくって帰宅困難者対策を進めているというのが現状です。

大阪の今回のやつ、まだ発災直後でいろんな報道があって、大阪なんかも帰宅困難者対策はやっているのですけれども、おっしゃるように会社がどうしたというような。災害訓

練のほうは入社してきたのをきょうは休みにするからと帰したというのはこれは最悪だと思うのですけれども、帰宅困難者対策的に言えば。

その辺は少し朝のああいふ時間帯に起きればどうなるのだというのは、これはやっぱりあっちが落ちていて、いろんな情報をもらって検証していかなければいけないなというふうに思っています。

ただ、我々としては、オリンピック・パラリンピックというのは当然あるのですけれども、来街者、外国人を含めて地震があったときにやっぱりお亡くなりになる方を少なくするという意味では、家がつぶれて亡くなるという方が首都直下では一番多いので、そこを一生懸命ピースボートさんなんかの力を借りて対策をやっていく。

それで、企業さんに向けて来街者をどうするのだというのは、ある程度発災直後はもう我々は生きるの、死ぬのという部分に全員で行きますと。だから、企業さんが自分たちで自分たちのまちを頑張って守ってというところでいろんなことを今進めているというような段階です。

事業者 何か外国人のことも少し入れておくと。もうずっと長くて日本語ペラペラという方と、それから新しく来ましたとか、旅行で来ましたという方々はちょっと違うとは思うのですけれども、語学がなかなかできないという方々に向けては、まさにそうだというふうに思います。

多文化防災フェスタというのがこれとはまた別で、多文化共生推進課を中心にやっていらっしゃるものがあるので、それ自体がもう少し盛り上がるようにみたいなこととか、ことしは運営ボランティアもそこに幾つか参加するとか、このしんじゅく防災フェスタのボランティアが参加するとか、そういった押しかけを少ししましたし、この協働事業とは別で新宿未来創造財団さんが翻訳のボランティアさんの登録を抱えていらっしゃるのですけれども、それが災害時のボランティアとしても語学を生かした活動ができるようにみたいなことを少しできないかみたいな話し合いを新宿未来創造財団さんと多文化共生推進課さんのほうでも話をされていて、そんな流れの中で社会福祉協議会の災害ボランティアセンターとも連携したいみたいな話が出てきているのです。

それはこの協働事業で防災はちょっと大きな旗印を上げた中でいろんな関係者の方々がそれぞれ動いているものみたいなのが情報がたくさん入ってきたので、例えば語学の発信で言うと行政的にはやさしい日本語、日本語と英語と韓国語、中国語ですけれども、それ以外の言語のところで、そこをいきなり行政が全部はできないので、ただ民間ではできる

人たちがいる。そんな人たちがどこにいるのだとか、どうやったらコンタクトをとれるのだとか、そういったこともわかってきたみたいなのは、こうやって少し大きな事業としてキャンペーン的に3年間やってみたいなことの成果はすごくあったのだというふうには思っています。

なので、困ったときに例えばベンガル語で困ったらこの人にちょっと聞いてみようとか、そういう人は具体的にわかったとかというのはちょっと大きいなというふうには思っています。

関口委員 結局骨太方針も外国人就労を大幅に認めるという話もありましたし、結局その多分新宿区の今の姿というのは、将来の日本の姿と私は思っていて、結局新宿区さんがこのいろいろな方々がいらっしゃるところで防災対策をどう進めていくかというのが、恐らく全国モデルで発信できるはずなので、ぜひ4年後、5年後と続けてこの事業をいただければ、結構日本のモデルになるのだらうと思っています。

事業者 しんじゅく防災フェスタのモデルがいろんなところに実は広がっていて、豊島区防災フェスタとかさいたま防災フェスタとか、楽しく防災のことをやることによっていろんな人に広がっていきますという仕掛けなのだと思いますので、それは行政がやったり、民間でやったり、地域の自主防災組織でやったり、いろんなパターンがありますけれども、これまで防災訓練だったものというのが、一般の方も参加できて学べる機会みたいなのがこういうやり方なのだというのは、実は結構いろんなところで拾ってもらっていたりします。

ということは、その新宿がモデル地区になっていて全国展開していく、東京展開していくみたいなことには、ひとつつながっているのかなと思います。

久塚座長 そうですね。やっぱり新宿区がモデルになるということは大事だと思いますので、そのきっかけになる一つの事業として、新宿区はいろんなモデルになるものを持っているけれども、その一つがこの防災のことであったり、あるいは大きなNPOの話であったりというふうになっていけば、さらにそれを導きみたいな形で自分たちもやってみよう。あるいは、NPOを立ち上げようというようなところも出てくるのだらうと思いますので、ぜひこれから先もきょうのヒアリング、それから意見交換の中で出て気づかれたことを生かしてこれからも続けていっていただきたいなというふうに思います。

時間になりましたのでここでとめて、それぞれの委員は評価をするという手続に入っていきたいと思います。

お忙しいときにありがとうございました。

(一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター・危機管理課担当職員退席)

(特定非営利活動法人メディカルケア協会・健康づくり課担当職員着席)

久塚座長 では、事務局から説明をいたします。

事務局 本日はお忙しいところをご出席いただきましてありがとうございます。

進行概要をご説明させていただきます。最初に10分程度実施団体から事業説明をしていただきます。補足がありましたら所管課から補足説明をお願いします。その後、30分間団体と所管課に対しての質疑をさせていただき、質疑後に25分間、委員と団体と所管課の三者による意見交換をしていただきます。

こちらからの説明は以上です。では、よろしくお願いいたします。

久塚座長 では、よろしいですね。団体のほうから事業についてご説明いただいて、約10分ですけれども、補足があれば担当課のほうからよろしくお願いいたします。

では、お願いします。

事業者 皆様、こんにちは。メディカルケア協会の小野でございます。お世話になっております。

過日は活動報告会、また5月28日の視察に来ていただきましてまことにありがとうございました。

視察で見ていただきましたように順調に事業のほうを進めております。きょうはさまざまなお意見をお伺いして、また事業のほうに反映していきたいと思っておりますので、どうぞご指導よろしくお願いいたします。

では、早速事業の概要と現在に至る実施状況につきまして、簡単ですけれども説明させていただきます。

事業の概要につきましては、ご説明を何回もしておりますので簡単に振り返りをさせていただきます。ポイントといたしましては高齢化が急速に進む中で、特に摂食嚥下機能の維持・向上の重要性、それから日常的にこの活動に取り組むことで区民の方々が食べる機能の向上を目指して、そして低栄養や誤嚥性肺炎といったような重篤な症状にならないように、先に、先にと予防をしていくというようなことを実現して、高齢者の健康づくり、また健康寿命の延伸に貢献していきたいというふうに考えている事業で

ざいます。

なので、単なる口腔機能向上というだけではなくて、全身の健康づくりということで進めている事業です。ですので、この活動を進めていくために、まずは活動を多くの方に認知していただいて、知っていただくということが一つ。それから、知っていただくだけではなくて、さらにそこに自分自身も取り組んでいくのだという動機づけをしていくというこの2点が重要と考えておりまして、このために二つの大きな柱を立てています。

一つは、ごっくんリーダーの育成ということでございまして、住民自身がこの活動に直接かかわりを持ってセルフケアをしていくということと、それから自発的に活動することによって地域の中に浸透していく、定着していく、日常的に習慣化していくというような健康づくりにしていきたいということです。

これをしていくためには単純にお話をしていくとか、イベントをしていくというような一過性のものではなくて、そのこと自身が楽しく続けることができるというようなクオリティーの高いツールだったり体操だったりとかいうものをつくって行って、楽しく続けていただけるようにしていくことが大変重要なポイントというふうに考えておりまして、1年目はまたそういった意味で一つはおもしろく楽しく続けられるというクオリティーの高いツールをつくるということに力を注ぎました。

でき上がりましたのがこのDVDに収録した『色とりどりの道～新宿ごっくん体操のうた～』というお口の体操でございまして、私どもの今まで嚥下体操を作って培ってきたノウハウや制作に関わる人脈でありましたり、それから区のほうの人脈、ネットワーク、そういったものを総合的に入れて、それによってクオリティーの高いものができたというふうに考えております。

このうたと体操は医学的な根拠に基づいてつくったものであり、さらに住民の方々にもこれをつくるに当たってはヒアリングに参加していただいて、リズムとかテンポだったり言葉だったりとか、そういったところのご意見を反映させながらつくったということです。また実際に2月以降こちらを使って啓発活動、普及活動をしておりますけれども、そこでも大変評判がよくて、今年度続けていくための基盤が十分に1年目できたなということで、そこは2年目以降も、今あちこちからお呼びがかかったりとか、広がっていているというところに成果があらわれているというふうに考えています。

それで、昨年の成果としては、戦略的に会食会を通じた形で展開しておりましたのですが、そこが一番私どもがお届けしたいと考えている高リスク者の多い後期高齢者の

方々が日常的に多く集まる場でありまして、またそこを支えていらっしゃるボランティアの方々が、このごっくんリーダーさんという広報になっていただける方たちであり、また地域のことをとてもよくご存じで、高齢者の医療・介護とかにまだ関係していない、まだお元気と言われる方々の生活実態をよくご存じの方というような幾つかの条件にぴったりだったということで、そこから入り口として入っていきました。十分そういったことを理解することができまして、今ではだいぶその地域の方々の応援団がふえているというようなことが成果であると考えています。

今年度についてなのですけれども、継続的に今やっていることを引き続き続けていくということだけではなく、少し前倒しでモデル地域だったりとか、そこをさらに広げていくということが、2年目の大きな方向性というふうに考えておりまして、特にあちらこちらから引っ張りだこでお話をいただくものですから、ごっくんリーダーさんを養成していくような講師役という方たちも大変重要な人材になってきておりますので、そのところをこしは特に注力してやっていくということで、医療とか介護の専門職の方々向けの講座を多く取り入れていって、その方たちがまた自分たちの所属している機関を通じて啓発活動に参加していただく。また、講師役としてもお手伝いいただくというようなところで広めていきたいというふうにも考えています。

実際に4月から6月の間の3カ月にわたって活動しておりますが、実際100名程度の方たちを目標値として立てましたけれども、その倍の200名近い方のご参加がありまして、今現在でも、もうごっくんリーダーさん、67名ぐらい登録をしていただいているという現状でございます。

では、次に区のほうから詳細についてお話しさせていただきたいと思います。お願いします。

事業課 それでは、健康づくり課のほうから、この机上にきょうお配りいたしました中の1枚目、青い付せんについているこの協働事業相互検証シート2年目以降用という、これを使ってご説明をさせていただきます。事前にお配りしたもののの中に表題が抜けていたりちょっと不備等がございまして大変失礼いたしました。

そこを訂正しつつ、ちょっと不明瞭なところ等も書き足したりしながらきょうのこの報告会に臨ませていただきましたので、この表裏を説明をさせていただきたいと思います。

特に少し加えたところを中心にご説明をさせていただきますが、まず課題や受益者の意見の把握というところで、事業実施に当たってどのような問題点や課題がありましたかということで、従前からこの評価会でさまざまな課題についてご指摘をいただいていたこと

も、これも対応してきたので、そこの部分をちょっと書かせていただきましたが、あとやはり具体的に細かいところではこの3点をやっていく中で、1番としてモデル地区の選定、ごっくんリーダーの養成方法と活動方法などを地域の状況に合わせて定め、地域のキーパーソン等と調整していくことが難しかったです。こんな課題がございました。

これについて地域の有力な町会長さんですとか、そういった方々に大変ご協力いただいて克服することができたのですが、やはり地域の有力な方々をどういうふうにごこのことにかかわっていただくかということが課題でございました。

2点目として、ちょっと具体的な細かい問題なのですが、地域に出張した際にこういうDVDですと、それを映像として映す機材がないと実際には写らないということで、例えば区の施設でこういうDVDを映写するところがあればいいのですが、なかなかないところで呼ばれた場合だと、こちらですべて機材を用意しなければならない。こういったことがちょっと細かい点ではございますが課題としてございました。

3番目として、先ほどNPOのほうからの説明がありましたように、普及をしましたら大変反応が早くて、出張の依頼等が想定よりも早くふえてきてしまった関係で、これからの体制を組むということについて、さらに少し早い体制づくりが課題というふうにながってまいりました。

続きまして、受益者からどのような意見があったかということですが、ツールについては大変のりがよいとか、明るくてとてもいいというようなご意見があつて、高齢者の方々もこういった曲が、あるいは歌が非常に親和性があったということが、受益者の方からの意見でわかりました。

また、地域の身近な地名、旧跡の名称等を入れたことが、大変その土地の方々には喜ばれたというか、これは新宿の歌なのねと、ぜひ一緒に広めていきたいわねというようなことをいただいております。

それから、啓発活動やリーダー育成について。これについても講習会を聞いた方、特に講師の方々のお話もすばらしかったこともあつて、この歌と体操を広げていく意義について非常に前向きにとらえていただいた意見を多くいただきました。

といったことでやはり研修会の内容の質も問われてきますし、あるいは歌や体操の効果が実際にやった中で確認できるということも大事というふうにご考えられました。

裏面を見ていただきたいと思います。この課題の分析でございますが、もともとご提出していた中では先ほどお話ししましたとおり機材等の問題について、今後考える必要があ

るといふような分析ですとか、地域に行って実際に指導ができる講師役として医療・介護の専門職の方をいかにこのごっくんリーダーの講師としてこちらの活動に参加していただくかということも必要だということがわかってまいりました。

実際にアンケートの結果を分析してみますと、ごっくんリーダーには関心を持ったのだけれども、なりたいかというふうに聞かれると実際にどういふことをやるかわからないから未記入という方が多かったのです。実際にこれは今までNPOさんが研究したデータと比較しますと、ここに書いてございますように、団体単独で実施した場合にはリーダーになってもよいというのが22%。今日のアンケートでは、この協働事業でリーダーになってもよいという方が34%と5割以上多いということで、やはりDVDを使っていただいて、実際にリーダーとしての活動がしやすい体質をつくったことが、リーダーになっても自分たちがやれるなという自信と、しかもDVDをいただけて、日ごろからそういういい話が自分のところでも聞けるというそういうインセンティブにもなったかと思っております。今後こういった方々が本当に地域で活躍していただけるようにしていきたいと思えます。

最後に改善策の検討でございますが、新宿区ごっくんプロジェクトという、今やっておりますプロジェクトの中で、医療・介護関係者にも十分理解をしてもらってリーダー数の拡大を図ってきたということをちょっとつけ加えさせていただきました。

それから、一番下のところで6行ほど、事業の目標設定について少し細かい、以前にご指摘をいただいた点を入れさせていただきます、こういったごっくんリーダーの数だけではなくてさまざまな参加者満足度、あるいは当事者の口腔機能向上の確認のための実際に例えば一つのことを長く発声する最長発声持続時間と書いてございますが、「あー」と言い続けて何秒言い続けられるか。これが体操や歌をしているうちに延びてくるというのが日本摂食嚥下リハビリテーション学会の理事長の植田教授のお話でしたので、こういったことを実際にやってみよう。

これは実際にこれからの広げ方との関係もあるのですが、今年度は2地区、榎町と戸塚をモデルにしますが、ここは複数回我々がかかわっていきますので、そこではこういった事業の評価が、個々の方々が実際にやったら本当にそうなるかということが検証できます。

ただ、これを全区的にやるのは無理なので、今年度は残り8地区については、2地区ずつグループを組んでいただいて、そこで研修会を行って、その地域のリーダーの方々の養成をしていきたいと思えます。31年度には全地域でそういった方々が活動できるような、

そのための基盤整備を今年度少ししたい、というふうに思っています。

具体的にごっくんリーダーを、どういった方々にこれから広げられるかということも前回もご指摘をいただきましたのでいろいろ検討いたしました。例えばシニア活動館ですとか、地域交流館に集まれる方々に働きかけをさせていただいて、その活動の中に取り入れていただく。

あるいは、いきいき体操のサポーターの方、スポーツ推進員の方々のような全区的に大きな組織を持っている方々に理解をいただいて、全区的に広げていただく。こういうことがあると思います。

それから、前回こちらの評価会でも少し聞いていただいた虚弱な方、デイサービスに参加するような方々にもぜひ広げたいというご意見をいただきましたので、新宿区内には67カ所のデイサービスがございますが、先日全デイサービスに通知をお送りして、ごっくんリーダー養成講習会にお誘いをしたところでございます。

あるいは、医療・介護の専門職の方々についても、例えばこの会で歯科医師・歯科衛生士の方々をお願いしたらというご意見をいただきましたので、今年度から歯科健診の中に飲み込みの検査を導入いたしました。飲み込みの検査で指摘された方に日常の中でこういう体操や歌を歌っていただくということで、中には自分の歯科診療所の待合室を使って講座をやってみようという方や、区の場所を借りて、そこに歯科衛生士を派遣して講座をやってみようという、専門職でも地域福祉に貢献していただける方々が出てまいりました。

ということで、モデル地区としては、そこでしっかりと継続性を持ってできるかという効果判定をいたしますが、全区に広げるときにはそういった細かいことよりも広がりを持たせて、全区民に普及できるようにしていきたいというふうに考えています。

久塚座長　そろそろ時間がだいぶ過ぎましたので。

事業課　そうですか、わかりました。では最後にまとめをさせていただきますが、この相互検証シート、最後の改善策の2行ですが、平成32年度以降を見据えた今後の展開として、歌と体操の広域的・持続的な普及については、現在区が進めている高齢者の健康づくり等の施策と一体的に推進できるようにさらに検討していくというふうにいたしました。

これは現在さまざまな形で介護予防も含めて区としては行っていますが、これを区民から見ればやはり一つの活動としてとらえられないと、やはり特別の体操があったり、どれをしていいかわからないということになってしまうので、例えばいきいき体操をやった方がこのごっくん体操もできるとか、そういった相互乗り入れができるように今後していっ

て、一体的に推進できるようにしていきたいというふうに考えております。

大変長い説明で恐縮であります。以上でございます。

久塚座長 では、まずはヒアリングですので、いろいろご質問がある委員たちがおられると思うのですが、ではどうぞ。

伊藤委員 この課題、受益者の意見にもあるけれども、のところがいいのですが、私から見ると結構、本当に正確に把握している。課題・問題点も書いてあるのですが、例えば弱小の施設が単独でできるようにここに書いてあるCDをつくる。それから、もっと言うと大きい歌の文句が書いてあるようなやつを白板に張ってできるとか、そんなことがあると本当に設備がないところでできていくのだろうと思います。

それと、あと一つ。モデル地区内を二つ決めとありますけれども、そこでの活動の期待をどんなことをやっていくのか。例えば、後でまた出るかと思えますけれども、このところで一つ一つ、施設が30施設あってそこに何うか。先ほどもあったように戸塚地区、榎町地区でそういう施設に送って、そのごっくんに対するプレゼンをやるといような、参加してくださいとあるのだけれども、結局それを見ただけでは結構忙しい。小さいし弱小施設は忙しい。夜になると出かけていくというのは結構難しいので、やはりそこら辺も考えなければいけないと思います。

それと先ほど出た医師会、歯科医師会は正解だと思う。だから、つくったパンフレットを置くのはいいのだけれども、置いて読んでいくのか、そこからそのパンフレットが動き出していくのか。そこら辺を見ていかないといけないと思う。そんな点を考えていच्छるかどうか。

事業課 1点目のまず大きい歌詞カードは必要だと思っています。それから、楽譜があったほうが歌いやすいなと思います。

CDをかけられないけれども、ピアノやエレクトーンがあるところはいっぱいあるので、そういった楽譜を持っていただいて、実際に職員の方に歌っていただいたりするのが小さなところでは現実的かなというふうに思っております。

伊藤委員 ぜひ。

事業者 ありがとうございます。実は榎町と戸塚については、2日間コースで一応講習会は終わったので、そのあたりでごっくんリーダーの方もいच्छるのでありますが、ただ最初のごっくんリーダーの方なので自分のグループに帰ってやっても正直途中で迷ってしまったり、これを続けるにはちょっとどうしたらいいのかしらとか、質問に答え

られないと申しわけないので、もう1回ご支援というよりは失礼ですが、こちらからお伺いして、やっているところに行ってお一緒にやらせていただいご質問や、あるいはリーダーの方が迷わないようにさせていただこうというのが今回のモデル地区で今考えていることです。

そうしませんと、結局1回はおもしろかったけれども、結局は続かなかったとなってしまうと、それは意義が少ないと考えておりました、継続していただけるように、継続するための支援として最低1回はお伺いして下支えさせていただくというふうに考えております。

あと、そういうところにも見たいという方がいらっしゃれば、来ていただいて一緒にやっていただければ広がっていくのかなというふうに思っておりますので、そういう意味ではモデル地区は少し持続していけるための方法を考えてみたいと思っています。

伊藤委員 それともう一つ、さっき言われた。

60何名というのがあったのだけれども、あれは第一次のごっくんリーダー？ それともごっくんリーダーが育てたリーダーも入っているということ？

事業者 いえ、第一次のリーダーになります。

伊藤委員 一次の。というと50名が67から13%アップというような形で進んでいると。

事業者 そうです。特に、今先ほどのことのもう少しつけ加えさせていただくと、前回はその担い手の方の支援ということにも力を注ぐということで、このことしつくるツールの開発というのは、その支援者のためのツールということになりますので、『ごっくん手帳』だったりとか、それからCDも含めた形でいろいろその活動をどんどん推進していくために何が必要かということを検討しながら、先ほどの講師の件だったり、CDとか含めて提供していくという形になっています。

事業課 もう1点お答えしてもよろしいですか。今、伊藤委員からご質問のあった診療所とか医師会、歯科医師会の先生方がこれを活用する場合のことなのですが、診療室で待っている時間が長いので、そのときにかけていただいてどんどん聞いていただいて、耳に入れていただく。あるいは、その場で少し歌詞を覚えていただくというような、医師・歯科医師の先生がご自分で動かなくてもその場で長い時間それを聞いていただければ、普及していくかなというふうに思っておりますので、そういう意味でもやりやすい形をいろいろ工夫してまいりたいというふうに思っています。

伊藤委員 テレビを置いてあるところだったら普通のテレビ、一般の社会情勢をやっている、経済情勢をやるよりもそういうのをかけて。1年じゅうずっとかけているということではなくて、人がいるときにポツと切りかえてというような方法もあるから。

事業者 そうです、そのとおりです。

事業課 実は専門職の研修会をしたら、歯科医師会の先生が多数参加されたのです。これからは歯科診療所も悪いところを治すというだけではなく、予防という視点や高齢になっても食べられるという、視点が非常に重要でこの区の歯科医師会の先生方はそういう点のご理解が進んでいるので、非常にありがたく思っています。

久塚座長 だから、今おっしゃったようにこのタイトル発信は、ごっくんリーダーと流すのではなくて、予防の何とかというふうにして流すとそういうふうに見えるのです。

事業課 見せ方ですね。工夫したいと思います。

久塚座長 では、ちょっと時間がほとんどあれだけでも、ほかに。

土屋委員 私、シニア活動館で毎週体操指導をしているのですが、今結構枠がいっぱいなのです、その体操の枠というのが。そうすると今度新たにこのごっくん体操というか、それ、ごっくんリーダーとして何かそれをやるとして、その1時間の枠をいっぱい使って何か教えるというのは、ちょっと余りにもやることがなく、何回も体操をやるわけにもいかないので、だからやっぱりほかの既存のそういう体操指導とかしているところとか、その食事サービスのときとか、それを一緒にやることはすごくいいと思うのですが、その今そういうやっているグループなんかと交流はそんなに密ではないですよ。連絡はしていないですよ。今後どういうふうにしていくか。

また、あといきいき体操との棲み分けというか、一緒にやるのか、どういうふうにするのかということも含めて今年度、来年度どうしていくかというようなことをちょっとお聞かせいただければ。

事業課 二つございまして、一つはスポーツ推進員の会長さんは、自分が今までやっていた体操の活動で、口のところだけはパタカラの歌を歌っていたのだけれども、このごっくん体操をかわりにやるからそれでどうだろうというご意見もいただきましたので、今、土屋委員がおっしゃったように上手に取り込んでいただければ、あまり時間を余分にとらなくてもできるかなというふうに思っています、一度に二つでも三つでもいろいろな体操ができるというのがいいかなというふうに思っています。

ちなみに区としては、今あるいきいき体操のように非常に広がっているいい体操と、そ

れからほかにも今開発している「100トレ」という筋トレのようなものとかいろいろございますので、そういったものを全部一つの形の中でできるようにしたいなというふうに考えております。区民の方々が一つやれば三つの効果があるというふうにしていきたい。やはり区民の方々がやりやすいというふうにしていきたいと思っております。

事業者 それから、1回の体操の時間というのが、この体操自体ですと3分少々のもので、プログラムとしては10分程度で提供できるような内容というふうになっておりますので、そこを今現在の活動の中に取り入れていただくということは、比較的できるのではないかと考えております。実際には、ごっくんリーダーになっていただいた方たちのところではもう既に始まっております。具体的に言うと北新宿の第二地域交流館では、自分たちが毎日やっていらっしゃる体操の中に口の体操のところを取り入れていらっしゃるということで、徐々にですけれども広がっていているというふうに考えています。

土屋委員 今までやっている枠でやっているリーダーというか指導者というふうな今後コンタクトをとって、すごく理想的な今のお話はすごくいいと思うのですが、それを実現するためにどういうアプローチをしていくかということをお伺いしたいのですが。

事業課 個別にというよりは、区のほうでその所管しているところとよく相談をしながら、団体の責任者の方、あるいは運営をされている方とまずはよくご協議させていただいて、今委員のご指摘のようにやれるところはどこかというところを1回ご相談させていただきながら、全体に普及をしていきたいというふうに思いますので、個別に当たっていくということはもちろんあるかもしれませんが、まずはこの大もとのところできちんとご相談させていただければと思います。

事業者 例えば地域交流館の一つなんかの場合は、そこに参加をされているグループの方たちを集めてくださるというふうに言っていて、交流館が主導する形でそのご参加いただいている人のリーダーだったりとか、やりたいとか、取り入れたいという方たちに指導をしてくださるという形で、そこから広げていく。

足りないところに対しては、ご要望いただければ私どもが直接行くということもできますし、館の職員の方たちに実際にもう教えておりますので、そこを通じて何回かお手伝いをしていくというようなことを一つ一つの館で実施していくというふうに考えています。

及川委員 私からの質問なのですが、10ページのところに一番上に啓発イベント等の開催は二、三カ所地域で計4回程度というふうな事業展開で、2年目の事業展開で

二、三カ所地域で年計4回程度というふうに書いてあるのですけれども、平成30年度、ことしなどはこれは二、三回やるというふうに考えてよろしいのでしょうか。

啓発イベントの開催がちょっと1日しか見当たらなかったものですから、イベントというのは先日拝見させていただいたあれが啓発イベントで、あれを年に何回かやるというふうに考えてよろしいのでしょうか。

事業課 これはさっきちょっと私のほうでご説明させていただいた二つのモデル地区以外のところ、8地区があるのですけれども、そこを全部8回というのはちょっと無理なので2地区ずつ。戸塚と榎町のように二つの地区を合同でやっていただいて、そこで1回ずつ講習会を開いて、その両地区の方々に集まっていただいてというのを全部で4回しようということでございます。

及川委員 先日のイベントのような。

事業課 そうです。

及川委員 わかりました、ありがとうございます。もう一つは、ごっくんリーダーさんが67名というお話があったのですけれども、その内訳など。というのは、地域の世話役、キーパーソン、担い手となる区民や多様な主体、学生、子ども、商店街というふうな記入があるので、6ページのところなのですけれども、学生や子ども、若い方の参加も促しなんていう記述があったものですから、67名の方というのが先日イベントに参加した際にお見かけしたすごくやる気のある高齢の方が中心となってやっていたらっしゃる。ああいう方たちが67名なのか、それともその中に若い方ですとかお子さんなども含めてそういう方が入っているのか、内訳などを教えてください。

事業課 区民の方はやっぱりもし年齢を問われるとややご高齢の方が多いのですけれども、あのときにも実は地域の歯科衛生士の方ですとか、専門的にそういうことにかかわりのある方々が何人も参加をしていただいている、しかもそういう方が住民であったり、あるいはこの地域で活動している方なので、そういう方々は実はさまざまな年齢層の方々のところでいろいろな事業をしていて、それこそ若い人が保育園とか行くこともあるでしょうし、そういういろいろなところで接点があるという意味で、高齢者がターゲットではあるけれども、やはりごっくん体操を知っていただくには幅広いところに行っていただくという意味で専門職の方々がチャンネルが広いということでございます。

ただ、区民の方々に若い方がいらしたかという、高齢者の方を介護していらっしゃる若いご婦人とか、そういう方々もチラホラいらして、何が目的かはよくお聞きしませんで

したけれども、地域の中で何かを考えて活動していらっしゃるのかなというような印象はございました。

及川委員 大体の方はその専門職の方であったり、その町内会の方でということによるのでしょうか。

事業課 あとはさっきお話ししたいいき体操のサポーターさんですとか、それからスポーツ推進員の方のような、もう既存の活動をしている方々もいらっしゃるのです、そういう方々はご高齢というわけではなくて、まだまだお若い方もたくさんいらっしゃいました。

及川委員 わかりました。ありがとうございます。

事業者 今の内訳ということだと、町会とか地域に暮らしていらっしゃる方々というのが半数ぐらいで、それからあと半分というのが専門職中心という形に大きく分けるとあるのですけれども、その展開していく中のステップというふうに考えていただければいいかなと思っておりまして、まずは後期高齢者、高リスク者に接する機会が多い方から順番にステップを追って展開をしていくということになっていますので、1年目はそこに一番近い方たちをやって、2年目、3年目というところで、少しずつその周りのところにもどんどん広めていきたいな、というふうに考えているということでございます。

それから、当初の1カ所、2カ所というのは、実は最初のところで一、二カ所程度から始めようと思っていて、その後、3カ所というふうに増やしていき将来は全域にというふうに考えていたのですけれども、先ほど申し上げたみたいに結構要望が多かったものから、去年からもう既に6地区で展開をしているというのが現状でございます、当初の二、三カ所というよりは広い地区でもうやっているというような感じでございます。

だれに伝えたいかとか、どのぐらいの方に伝えたいかという調査を追ってしていますけれども、平均するとお一人で3人ぐらいの方々にはこのやったプログラムについて内容をお伝えいただいているという結果が出ておりますので、実際に私どもがプログラムを提供した人以上に、この3倍の方たちには少なくともこの話が通じているというふうな結果を得ています。

及川委員 イベントに参加して講義をしてくださった先生がすごく楽しかったものから、次年度以降も何回もというふうにお問い合わせできるということでしょうか、それともほかの方でしょうか。

事業課 あの先生は国立国際医療研究センター病院のリハビリテーション科の医師で日本で指導的な立場にいらっしゃるような方です。新宿に国立国際医療研究センター病院が

あるということで、大変好意的で気軽に来ていただけるので、またご協力いただけることがないとは言えませんが、あの方だけだと現実的に難しいので、我々が少し勉強してやらせていただくということを考えています。

事業者 ただ、私どもがやっている内容につきましても、もう本当に95%以上の方が大変よかったとか、続けてやっていただきたいとか、楽しかったとか、こんないい話は聞いたことがないぐらいの本当にそういうお返事はたくさんいただいている、そのことが口コミだったりとか、次のステップとして広がりにつながっていて、当初の予定よりも広がっていている。もう1回聞きたい、となっておりますので、プログラムの内容につきましては自信を持って今後も続けていきたいと思っています。

及川委員 どうもありがとうございました。

久塚座長 時間が迫ってきているので、関口さん、いいですか。

関口委員 また同じことになってしまうのですけれども。お願いしているとおりの皆さんの法人としての事業報告書と計算書が、今年度分がまだ内閣府のホームページに上がっていないので、ちょっと次の楽しみにしていますので。

事業者 ご指摘いただいておりますことにつきましては、既に今年度の理事会のほうで全部検討しております、内閣府のホームページに掲載されるのが、内閣府の都合でしてくれているのですけれども、当方といたしましてはもう所管庁に、言われた内容で提出しております、そこに掲載されればご希望に添った内容になっていると思います。

それから、つけ加えさせていただきますと、ホームページのほうも全面的にリニューアルをいたしまして、飲み込み110番という食べることに特化した形の専用のサイトを2月1日オープンさせていただきました、新宿区の活動もお知らせするように随時掲載しておりますので、そちらのほうもぜひごらんいただけたらなというふうに思います。

久塚座長 ほかの委員の方、大丈夫ですか。

では、ちょっと前倒しになりますけれども、ヒアリングという形からこういうふうにしたらどうですかとか、こうするともっといいですというご意見があろうと思いますので、今から約25分間ぐらい意見交換とさせていただきます。

では、どなたでも。

土屋委員 先日ちょっと参加させていただいて、それで私、2回目のほうに参加したのですけれども、そのときに私は1回目参加していなくて2回目なのですけれども登録してもいいですか、DVDもらえますかと言ったら、どうぞ、どうぞという感じで皆さんにD

VDをお配りしていたのです。余りにも安易にちょっと配り過ぎではないかなと。

それで、一緒にシニア活動館で活動している人が、このDVDはもう何か品薄らしいよというようなことを伺ったのですけれども、そのあたりはどうなのですか。

事業課 土屋委員のご指摘は実は大変悩んでいるところです。多くの人にこの体操を知っていただき広げていきたいので、このDVDを見ていただきたいと思っています。実際、内容はわかりやすく、かつ専門性の高い講義が収録されているので、専門家もこれを欲しがっているくらいです。ただ、余り敷居を低くするとさっきおっしゃられたように何か安売りしているようになってしまうので、非常に毎回悩んでおります。

せっかく税金を使ってつくらせていただいたので、この体操をやりたいと思っている方には、なるべく差し上げたいと思っております。内容を見ていただければきっとおわかりになりますが、DVDの内容で講義がしっかりと受けられる形になっていますので、そういう意味で2回目においでになった、つまり参加していただいた方には差し上げるということです。ですから、在庫が足りなくなっているといういわゆる品薄感というわけではなく、安易に配らず講習を受けた方だけに進呈するという条件を設けたことが体操の普及を妨げないかという点が課題と認識しております。今一番悩んでいるところをご指摘いただきましてありがとうございます。

土屋委員 そうだと思います。それで私はいただかなかったのですけれども。

やっぱり税金を使っているし、それでは申しわけない。どうぞと言われたのですけれども、いただかなかったのですけれども、やっぱりDVDを見られない方が、かなりご高齢の方が、やはりいきいき体操のリーダーもそうなのですから多いため、今度CDをつくられるということなので、そちらのほうがどんどんもっと広げていったほうがいいかなと思うのです。

事業者 この間の2日コースの講習会に関して言いますと、もともとその参加対象者というのが、榎町の中ですでに地域の集まりに参加していて、広げていける方たちを中心に集めていました。オープンのもではなく、だれでも来ていいというような会ではなかったのです。

ですから、私たちがフォローができるといいますか、DVDをお渡ししたとしてもその後にもう一度きちんとそこのグループに行って、そしてご指導もできるということが前提での講習会だったものですから、やっぱりお渡しするときに2日のうちの1日だとしてもそのきちんとできると。そういうことでお渡しをするような形になったと思ひまして、基

本的には今事業課が言ったようにだれかれ渡すというものではなくて、講習をちゃんと受けた方に渡すというようなことで今現在進めております。

伊藤委員 自己点検シート2年目以降用というやつ裏面のほう、IIのところ。担当課さんから地域のキーパーソンとして熱意のある町会の会長にNPOから働きかけをしてもらった結果とここにあるのだけれども、何件NPOさんは働きかけをしたのですか。

それと、熱意のある会長さんは何人ぐらい参加してこられたのですか。そこをちょっと聞きたいのですが。

事業者 お目にかかった方は多分100人を超えていると思います。

事業課 いろんなところでお声をかけたので、ここにはNPOから働きかけをやってもらったと書いたのですが、私どもからもお声かけをしております。

伊藤委員 では、どちらかというとならNPOさんよりも担当課の仕事の部分ということだよ、これは。

事業課 たしかにそういう部分はございます。ただ、もうちょっと説明をさせていただくと、町会長さんにお声かけをしていくには、個別ということも重要なのですけれども、やはり町会長連合会などの組織に対してという事もあって、事業課としては、地域の仕組みを所管している地域コミュニティ課と協力しながら進める。また、今回NPOさんが非常にいい形で、地域の核となる町会長さんに個別にお声をかけたということで、ここところは、そういった協働作戦の結果を書いているのですが。

伊藤委員 どっちかというとなら主導は担当課さんだよ。だから、記述をちゃんとしっかりしないと、NPOさん、すごい仕事したのだと思っていただけから。

事業者 多分この中のおっしゃるとおりで書き方の問題はすごくあると思うのです。

伊藤委員 わかりました。

吉田委員 非常にいい活動をしていただいているのですが、今のご説明を聞いていますと、どちらかというとなら主管課のほうで調整をしたりして、そもそも協働事業であるというところが、今ちょっと結局聞き方としては逆転しているような声かけをしてしまうのです。

ですから、NPOさんがもう少しどういった形でこういった成果を上げたということをおっしゃっていただかないと、それとこの事業自体がいろんな区の中でも主管課と関連してきます。

それで、高リスク者とハイリスク者ですとか、対象者をどこにするかとか、あるいは健康部だけの業務じゃないわけですから、そうすると介護予防の観点からどうするかとか、

そういう部分については所管課さんがきちんと言っていた方がいいと思うのですが、そういうものを受けて、では地域にどういうスタンスで入っていった活動を広げるかというのは、そもそも協働事業ですからNPOさんがもっと主体的に事業を進めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

久塚座長 ちょっと待って。そこで主管課が手を挙げるのではない形を聞いて、ご質問していたらNPOではなくてずっとあなたが守ってあげているみたいな形なので。

その形をとらなければ今の質問は出なかったと思う。NPOが責任を持って事業の最初の説明を少しして、だからやっぱりすごくご心配というか、自分が答えたほうがいいのかなみたいなのはよくわかりますが、ちょっとブレーキをかけていただいてよろしいでしょうか。

事業課 失礼いたしました。

事業者 物すごく頼りなく見えたのかもしれないのですが、実際に私どもが活動としてやっておりますのは、今主管課のほうにお話ししていただいておりますけれども、実動隊として動いているのは私どもでございまして、実際に町会等に働きかけをしたりとか、会食会の集まりに行ったりとか、それから実際にプログラムの提供をしているのも私たちでございまして。あくまでも区のほうは、今、委員がおっしゃったように全体の中でとか、調整とかいうところはお手伝いをいただいておりますけれども実動はやっておりますし、また調整等にしても企画の段階でこのように進めていけばいいということを実際にほかの自治体での経験がございまして、そこを踏まえてご提案をして、そしてそこに合わせた形で考えていただいてやっていくと。一緒にやっていくというふうなスタイルをとっておりますので、私どもとしてはむしろ主導をこちらが持ってやっているというふうに考えております。

吉田委員 ゆくゆく3年終わりますと主体がごっくんリーダーさんのほうに移っていくわけですね。そこはどうかやって協働はしていくものなのですか。ずっとこの予算がつかないわけですね。それとも所管課のほうでずっとこの金額を出す予定でいるのですか。

久塚座長 今の質問は、まずNPOのほうにこれ、事業を終わった後どういうふうに継続されるかということ踏まえてお答えいただければと思います、まずは。そして、それプラス補足があればということで主管課のほうで、よろしいですか。

事業者 ありがとうございます。まさに私どもは今そのことに関して担当、区のほうとお話を調整しているところでございます。せつかくここで育成を一生懸命やっていた方

たちを、そのままにしておくというのは本当にもったいないことですので、これをいかに続けていくかという、4年目以降も拡大をしていき、育ててきた方々が自分たちでまた自発的に進んでいくためにどうしたらいいかというところに注力してやっている3年間というふうに考えております。

ほかの地区での展開というのを考えておりますし、これからもやっていきます。これは新宿だけの動きではなくて、全国展開の中でやっている一つの事業でございますので、これをやめるというようなことではなくて、継続してやっていきたいなというふうには考えています。

久塚座長 補足を。

事業課 先ほど最後にご説明させていただいた32年度以降ですけれども、やはり区としては、さまざまな体操と一体的に進めていきたいと考えております。区民の目線から見ればいろいろな体操が別々にあるというのではやはり実際にはやりにくいので、庁内でもそれを調整して高齢者の健康づくりを一つの方向性にまとめていきたいと思っております。今大変急速にそういった取り組みを進めておりますので、その流れの中で32年以降が見えてくると私どもは思っています、その32年度以降を視野に入れたこれからの取り組みというふうに書かせていただきました。その段階で具体的な内容は、他のさまざまな取り組みとの整合性をとっていきたいというふうに思っております。

及川委員 いろいろな角度でいろいろな多方向に話を持っていていただいてすばらしいなとは思ったのですが、ちょっと逆の発想で資料を見せていただくと、ちょっと散っている部分もあるのかなと思ひまして、というのは、9ページの2年目の事業展開というところなのですが、その一番最後のほうにステップアップ研修、自費ですとか、ユーチューブ、プレスリリースの動画配信、ツイッター拡散などというふうにご記入いただいているのですが、限られた予算と時間の中でこんなに広げてしまっても大丈夫なのかなというのと、あとその自費の研修というのはどういった方たちを頭に入れて、どういった内容で考えていらっしゃるのでしょうか。

事業者 見ていただいているのが当初の申請時の内容だと思うのですが、そのところから少し変更をしております、今年度やることは2018年の実施内容という別個にご提出をしておりますけれども、そちらでやる内容でございます、今回のステップアップ研修については、今回の事業の中では2年目に取り組まないということになっております。

ユーチューブとかメディア対応に関しましては今協議中でございますけれども、実施内容として目標値に掲げるような中には入れておりません。

及川委員 わかりました。ありがとうございます。

関口委員 2点ありまして、1点目が今少しあったのですけれども、DVDとCDという普及ツールのあり方について、もちろん主なメインターゲットである高齢者層の方はCDデッキとかDVDデッキとか持っているかもしれないのですが、今のご時世やっぱり先ほどちょっとユーチューブは却下されたということだったのですけれども、例えば自分の家を考えるとCDデッキはないのです。CDデッキを持っている人はどれぐらいいるのかなというところとか、結局その普及が大事というところから言えば効果的な普及ツールをつくるのが大事なので、そのメディア依存というか、CDは持っていなければ再生できませんけれども、ユーチューブだったらネットにつながればどこでも再生できますので、ぜひ税金でつくっているものですから、効果的な普及ができるようにウェブ経由の配信も選択肢としては検討していただきたいというのが1点目なのです。

もう1点目が先ほど出たその後のフォローという点で、団体が有償というのを当初出しているのですけれども、その中では皆さん結構これまでもさまざまところから補助金、助成金をとられて活動されているというのが出ているようなのです。これ自身は別に悪いことではなくていいのですけれども、結局補助金、助成金が切れるとすべてその後何もやらないというのはよくある話なものですから、例えばこの皆さんのこれまで取得されてきた医学的ケアを要する在宅療養患者への災害時支援事業、平成25年から28年ということについて、その後何かやっていたらいいのかとか、あとその後、文京区と協働事業で商店街活性化事業とか山梨県甲斐市と連携とか、周りから助成金とかとられていますけれども、その後それが単発で終わってしまったのか、何か今皆さんの事業として継続しているものがあるかどうか。それが多分今の新宿区の事業としても皆さんがある意味新宿区に骨を埋めて最後まで面倒を見ますという覚悟をちょっと判断する材料にもなるので、そこら辺ちょっと実績があれば教えていただきたいと思っておりますけれども。

久塚座長 ご質問のような形ですけれども、これから先、新宿区で頑張った形のものがどういうふうに続けていくのかというよりも、続けてほしいなということと、それを続けてほしいというのは「はい」と言うと思うのですけれども、今まで助成金なんかをいただいたものは、ではどのような形になっていますかということだと思っております。

事業者 私のほうから一部回答させていただきますと、この事業自体が実は連続性があ

って防災のところから、もっと言えば大震災の前に災害時の要援護者への備蓄が全くなされていなくて、実のところから実は始まっています。そこで行政との関係とか、あるいは制度上の欠陥とかありまして、それを踏まえながら、では今度災害が起こったときに要援護者の方はどこでみんな自分たちを守ったらいいかと。

というところで我々も福祉、NPO型の福祉型避難所というのをつくっていきましょうということで、この前も実はどうやるのですかと問い合わせがあったりして。そうしていると、今度は、要援護者の方々の要するに病気に関する対応は、いわゆる病院とか医療の専門家の方がやられるけれども、健康予防についてはなかなか手が届かない。リハビリについては、新宿区と慶應大学の里宇先生がそういうグループをつくられてリハビリをしていこうというのはあるのですが、実は予防的なものについては余りない。そこでは医療的なところとはまた別に、我々が今この食べることについての予防的な対応はお医者さんならできるのだから、逆に言えば素人がというか、みんなで避難所なら避難所の中で対応していくというようなことが必要ではないかなと。お医者さんではない部分でと、楽しくというようなところでは。

そういうところから原点が実は始まっています、これも4年、5年前から文京区で始まり、あるいはあちこちで始まりながら、ではどことどんな形で関係をするかということと言うと、商店街のルートにすることによって地域みんなに広がるなということで、当然我々がやっている事業を応援してもらうためにあちこちにこういうことをやっていますから協力してくださいということで民的な部分もあるし、催事のところで商店街と書いていますけれども、当然新宿区の商店街の連合会とか、あるいは各地の会長のところにはごあいさつして、こういうのをつくっていますからというようなことで関係をしながらやっていくというように形で広がっていきこうと。

ただ、いかんせん経営資源が大規模ではないから、限られた資源の中でやっぱり優先順位をつけながら進めていくというのが現状です。

それから、経済的な基盤については、ご指摘のとおりこれは非常にその価値があるけれども、価格として設定をしにくいというのは実はあるのですけれども、実は去年ぐらいからほかの地区でどうやって例えばセミナーとか講師とかパッケージを組んでいくとか、あるいは異業種のところに持って行って本業との連携をしていくというような形の仕組みをつくって試行錯誤している状態で、ようやくお金が入るスキームもだんだん出てきて、一例を挙げますと幼稚園の理事長と話をし、幼稚園で買ってもらいました。

これは何かというと、お父さん、お母さんの日はあってもおじいちゃん、おばあちゃんの日はないねと。では、先生にこのごっくん体操を教えて、我々が教えて、それに伴ってそれを子どもたちに教えて、子どもたちがおじいちゃん、おばあちゃんの日と呼んで、そして踊ってもらってと。

逆に言えば、今度は新宿区の協働事業の場合は3年間という限定がありますから、我々はこれを継続していくためには、正直言ってこの体操だけではだめだと。先ほど関口委員からありましたように、いろんな媒体を使った方法があるだろうというのはおっしゃっております。それで、やっぱり我々は別個に今度は紙ベースで何かできないかというところで、紙を使って継続性を保つためのツールも実は用意しています。

これは今後のニーズ対応でしょうけれども、同じツールでもやはり継続性を持たして飽きがこないようにとか、あるいは自覚意識を持って対応するような、そういうステップアップしていくようなものを十分にいろんな意味で失敗も含めて経験則として持ったりしていますので、その一番コアな分を新宿区で今提供させていただいているというふうにご理解いただければありがたいなと思います。

以上です。

久塚座長 だから、1個1個が単発にあるように項目ごとに書いているように見えますが、実はNPOとしてはそれがずっと継続して発展形態をたどっていつ今日に至っているのか、これからもそういうふうになるであろうし、するつもりですということですね。

事業者 はい。補足的に申し上げますと今回の事業、なかなか縦割り、横割りいろいろあって、プロセス管理をしっかりとしないと。区民の人に非常に喜んでいただいていますし、やはり私のかかわる喜びは行って、おじいちゃん、おばあちゃんが喜んでまた来てくださるとか、抱きついてこられてうれしがられると。この姿を見ると、継続することが一番の肝だと思うし、そこについてはやはりいろんなステップを踏みながら、いかに組織として、組織というか展開力をどうつけていくかということを一、二年で進めていながら、まさに協働の協定書にもありますけれども、この事業をどうやって進めていくか。我々団体と区のほうで協議しながら進めていきたいと思いますということで、やはり我々としては思いを再延長しながら進めていく、何らかの形で詰めていきたいなということで、先ほど事業課からも話があったように一步一步進められるかなということです。逆に言えばお願いで、皆さんも地域の人たちにぜひ宣伝していただいて、広がるようにステップアップできるようにご協力いただければと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

久塚座長 よろしいですか。予定された時間を少し超えましたけれども。

では、担当課、それからNPO、お忙しいときにお時間をとっていただいてどうもありがとうございました。

事業課 ありがとうございます。

(特定非営利活動法人メディカルケア協会・健康づくり課担当職員退席)

久塚座長 再開します。では、意見交換の場ですので、評価にかかわるような発言ではないというふうに心がけて発言をしていただくというか、これはよくなかった、よかったというふうになると、ある委員の発言がほかの委員に影響を及ぼしますので、あれはどうだったのかなみたいな話に近いような、私はこう理解したいのだけれどもというような形で。よしあしは余りなしの形での意見交換にしてもらえたらと思います。

どうぞ、どなたでもご発言があれば。

伊藤委員 2番目の事業、関口さんが言われたように申請というか、団体としての申請というか、それはそのとおりに受けておいていいのだよね、関口さん。やったという事実で。

あの説明をそのまま受けていいのでしょうか？ 出していると、申請したということをや？

関口委員 事業報告はそうですね、そういうふうに聞いています。

伊藤委員 だから、前回指摘事項については問題なし、解決されているという判断をしてしまっただけ。

関口委員 それでいいと思います。

久塚座長 意見交換ですけれども、今言ったように1番目の事業か2番目の事業か、ちょっとご発言いただければ。ほかにありますか。

平井委員 1番目の事業で、ちょっと私のほうからこんなこと言っただけかもしれないけれども、なかなか確かに3年間で育成していくというのは、かなり厳しいところがあると思うのです。

そういったところから言うとかかなりピースボートさんがいろんな団体を連れてきて、区も連れてきましたけれども、ボランティア団体を連れてきて、そこでいろんな関係の構築ができていくかなど。

さらにボランティアセンターで先月までやってきて、かなり顔の見える関係ができてきて、それは首都直下地震が起きたときに全国からやってくるでしょうから、そうするとい

ろんな参加してくれている関係と、それを通じて新宿区のほうにさらにまさに集まってきてくれるかなというところだけでも、もしかしてそれだけでも物すごく大きい成果かなというふうに思うのです。

ただ、残念なことに本当は主管課のほうで避難所のボランティアとかちょっと難しいと言っていましたけれども、本来はそういう人たちをうまく何か避難所につなげたり、そういうふうにしたほうがいいのかなど。

というのは、この冊子の中に、報告書の一番最後に災害時にできると言うことを聞いているのです。そうするとやっぱり一番目に高齢者・障がい者の安否確認・避難誘導。それから、初期消火活動。それから、避難所に行くというのが、普通の人たちがこういうことができるようになるので、そこら辺をうまく今度全国から来た人たちがこの関係団体を通じて、いろんなチャンネルを通じて新宿区に来てくださっている。それをボランティアセンターがうまく。今回ちょっと触れましたけれども、こういう避難所とかそういった活動を地域にもふやしていくというところ。

そういった意味から今回のちょっと協働事業の趣旨とちょっと違うのですけれども、そういう関係づくりができたという面ではいい成果かなというふうに思っています。一つの縁です、これは。ちょっとこれが評価になるかどうかはわかりませんが。

久塚座長 フェーズのことですね。だから、部長さんがおっしゃったようなことというのは、新しい委員の方は、1年目の方なんかは余りご存じないかもしれませんが、かなり新宿区が主導するような形でいろんなことが行われていたということに対する厳しい指摘もあった中で進んできたものだったのです。

だから、展開の形を少し変えることによって、関係づくりとおっしゃったようなこともこの事業で言っているようなこととは違った形での関係づくりが、迂回した形で違ったものを生み出しているというようなことかなと。

平井委員 ただ、最終的にはこの事業としての主たるイメージにつながるのかなという感じですけども。

吉田委員 今に関係して、私最初はいなかったのですが協力団体、実はボランティアさんはずっと長く同じ人がやっているの、やっぱり常に育成していかなければいけない。

今回懸念は、今までやっぱり3カ年頑張ってきていると思うのですが、その後を見るとやっぱり経済的な負担もあって、実は社協のほうにも相談が来たりしたのですが続かないのです、事業として。今回3年終わったらまた遅々としてしまう。だから、そういっ

た危機管理課としての全体的な今後を事業としてぜひ検討して、継続していく。本当に人は継続して支援していかないと育っていかないのです。

加賀美委員 よろしいですか。初年度は行政が相当骨を折って、危機管理担当部長が最初はすごく大変な思いをして、2年目、3年目、だんだん団体のほうもようやくネットワークを使いながら、かなり自分たちで自主的にやるというところでは、スタンスとしてはいいのかなと思います。

今度のアンケートの結果が出ていましたけれども、これ、昨年と比べての比較がちょっとわからないのですけれども、例えば日ごろ災害対策を行っていない理由と書いていますけれども、それはどういう意味で書いているのか。災害時にできると思うところが昨年度、今年度、2年目と3年目でどう変化してきたのか。そこら辺をちょっと見ないと、この成果があるのであれば、担い手育成ということについては、4年目以降はとりあえず一般的には協働期間を過ぎてしまいますけれども、所管課のほうで委託という形で、事業内容を精査しながら委託というのも通常はあり得る話で、さっき、おっしゃられるように継続していかないと多分そこで一旦途絶えてしまう気がする。

久塚座長 今アンケートのことをおっしゃったけれども、要するにその年、その年ではなくて、実際にかかわったような人たちが重複していたりすると、それが変化したりいろんな効果が出ているというようなことでも、そう簡単にアンケートでわかるわけではないけれども。

継続していくためのモチベーションになっていくようにアンケートを見るということも大事だと思います。

伊藤委員 感想なのですけれども。一つ目の事業で、防災意識の向上というのがこの事業の目的になっているので、そこは参加者がいるということは広がっていると思う。だけど、それが広がっていくと、今度は先ほど言ったようないろんな付随するものまで必要にみんな感じてくるわけです。それを放っておくと今度は不満になるから、そこら辺に対する青図もつくっていかなければいけないし、避難所はこういうふうなのをつくって行って、とりあえず皆さんの地区にそういうのができるから、ほかの地区へ行かないでその自分の町内で立ちどまって、そこでそういうのをやっていかなければいけないのだよとか。

それと、こういうものは楽にできるのです、平時のときは。平時の組織したものを今度はそういう緊急時にどうやっていくか。その受けている人も被害者になってしまうわけだから、その人は本当に新宿区内になったとき、やれるのか、やれないのか。もうそんなこ

と。

そういうためにだから平時の組織をどうやって危機のときにやっていくか。だけど、先ほどあったように名簿は利用できないし、連絡もできないし。そういうふうになると個人としては立派に何かやっていけそうな気がするけれども。

という考えを抱きました。すべてそうなのだけれども。

石橋委員 引き続き1番のお話で、それで先ほどのヒアリングの質問のときにもお話しさせていただいたのですが、今も伊藤さんの話も含めていざ実際にそういうことになったら大きな会場とかではなくて、地域ごとの小さな単位での活動になると思うのです。

そうなる運用も何となく違ってくるのかなと思うので、今回3年やっていただいて、これからはまたちょっと違う形で内容の見直しというのもありなのかなという。なので、本当にこの活動自体は大事だと思うのですが、今回ブロック塀が倒れてというのはだれも1回も思ったことがないことが起こって、身近なところでもいろんなところで、やっぱりその都度見直すテーマは決まってくるので、ベースは同じにして。少しずつ見直しというのがまた今のお話かなと。ベースとしては大切だと、改めて。

及川委員 同じ関連でやっぱり、団体さんのほうですけども、ボランティアのことにこだわって質問をしているんですけども、区民が小さいころでもいろいろ親子してその60名育てたこのボランティアさんが、一体新宿区の震災のときにどのぐらい活動してくれるのかというのは、テキスト的な明示ではできなくて、おっしゃるような例えばこのおうちにも少しさっきもおっしゃったようにけがをされた方の話とか、そういうことを考えるとこの事業に関してはイベントはすばらしいなと思いつつ、やっぱりちょっと心配な部分はあります。

ただ、私としては少し広がって安心できるものがふえたのかなというのと、この事業として応援できるのではないかなと意識として見ました。

土屋委員 1つ目の事業について。及川さんから先ほどちょっとお話があったのですが、小さなボランティア登録。このチョコボラではなくて子どもたちがボランティア登録できるような、社協さんで何とかできないのかなと思っているところなのですけれども。

地域に、各地域に社協の窓口があるじゃないですか。若松なんか、私は若松なのですけれども、若松の出張所内のあの窓口は結構帰り。隣が幼稚園なので幼稚園の子たちが寄ってくるのです、いろいろお話なんかしたりして。だから、そういうときを利用してこの小

さなボランティア登録みたいな、ごみを拾いましょう。それもボランティアなのだよみたいなことを言って、それでボランティア登録したらボランティアバッジとかをあげたりとか、その小さなボランティア、子どもたちのボランティア登録というのがすごく。

吉田委員 あるのです。現在夏休みにやっているのです。スクールコーディネーターさんが今でも出て、結局夏休み期間ですとか親子さんで入ってくださいとか、社協としてはかなりPRはしているのですけれども、やはり何か単位がかかわってくると親御さんが連れてくる。

やっぱり小さいお子さんについては、今回の防災フェスタをやるということは、そもそも若い世代の防災意識がちょっと例えば区民調査でも落ちていたというのがあって、それをきっかけにぜひやっていきたいと。だから、第1回目が若者体験なのです。

土屋委員 なるほど。

吉田委員 ええ、それでカエルキャラバン！が入ったというのは、もうまさしくそういう方たちに小さいときからそういった活動を通じてボランティアというものを少しずつわかってもらえたらという。

そのほかにも福祉教育の中でもかなり全国でもやっていますけれども。だから、新宿区としてはボランティア活動とかそういった福祉に関係するものとか結構やっているのですが、なかなかその活動に参加がない。

土屋委員 なるほど。でも、カエルキャラバン！なんかすごい人数でしたものね。子どもたちがウワッともう集まってきて。

吉田委員 あれはもうやって長い、好きですから。いいご意見でありがとうございました、ちょっとお話をさせていただきました。

久塚座長 最後のヒアリングの後の意見交換、約半分過ぎたので、二つ目の議題について移りたいと思うのですけれども、部長さん、どうですか、ごらんになっていて2年目の感じとしては。

高橋委員 1年目はちょっと準備期間ということもあって、スタートがちょっとまごまごしたところがあったかなと思うのです。それで、相手が住民さんの反応というところが非常に大きかったので、果たしてどうなるかなというような不安もあり、そしてそのDVDの作成もちょっとおくれ気味だったというふうに思うのでご心配をおかけしたと思うのですけれども、ちょっと時間をかけた理由はもう本当にいろいろとだめ出しができて、最初できてきたときにはすごく暗かったのですけれども、もうちょっと明るいほうがいいと

か、テンポがこのぐらいだとか、昔のグループサウンズのイメージでとかいろんな注文をつけまして、あの年代の方たちをターゲットにすぐ年代の方に覚えやすく、歌いやすくして簡単にしていくという。どこかに、頭の片隅に残っていつも何か繰り返してしまうような、何かそういう親しみのあるものにしようということとか、本当に何回も打ち合わせをしながら、私も何回も聞かせてもらったりしたのですけれども、そういう中ででき上がったものですので大変職員自身もNPOの方も、みんながやっぱり手づくり感が満載で、本当に楽しくできたなと思っております。

できたから、今これを普及という段階で、2年目まだ今年度始まったばかりですけども、去年の後半ぐらいから本当にスピードアップして行って、本当にたくさんの方に、会場にこれを持って行って、いろんな方にこれを聞いていただいたり、説明をしたりして、だんだん先が見えてきたかなというような期待感。そういうこれから何とかかなりそうな見込みといたしますか、それは手ごたえを感じているところです。

3年目、そしてその3年以降のこともやっぱり気になり出して、方向とか見えてきただけに、やはりこれをさらに区内全体に広げていくと。今、健康部で去年、おととしくらいまではそんなに動きもなかったフレイル予防のいろんな取り組みが今進んでいるのです。筋力が衰えるだとか、そういうあといきいき体操をずっとやってきた人も、今までやってきたものも含めてこのごっくん体操をうまくなじませていくといたしますか、そういう取り組みにしていきたいなと思ってずっと話はして。

久塚座長 だから、やっぱり言葉はあれですけども、縦割りじゃないけれども、1個1個別々ではなくて、それを通じてというプログラムにしてこう中に入れていく。

高橋委員 ええ、まさにそれを今話し合っているところです。では、どうしていこうかということのをうまく溶け込ませて行って三者一体です。いきいき体操と筋トレとか、あとこのごっくん体操とか、今その三者を取り組んでいます。ご期待ください。

石橋委員 先週末実は田舎に帰りまして、年配でかなりちょっと食事のままならない父親と食べたのですが、だから手も動かせないとかいう形なのと、ふだんもその楽しい食事をしていないと、その次のうまく食べるというところまでは難しいのかなという意味では、今健康部長がおっしゃったみたいいろいろと絡めてということで、まずまた別の協働事業の発表があったみたいに楽しく食べる、きょう一緒に食べるという。孤食ではないというのがあったと思うのですが、そういった形でまず食事が楽しくなって、そこで食べられるようになって、その後誤嚥がないようにと。後の、後のもの、活動かなというイメージ

がとても強いのです。

なので、この活動でももう少し力を入れていただくテーマがあるような気が、改めてそういった年寄りと食事をして思った次第です。

高橋委員 食事の会というのがボランティアの方たちを中心にやっているのがかなり広がっています。16グループぐらいがそういったサービスの。

そういう場なんかもこちらから出向いて行ってやらせていただくと。やっぱり予防なので、なるべく早い段階からかかわって行って、日ごろの生活の流れの中に取り込んでいただきたいなと思って。

石橋委員 よくデイサービスでもそういった体操がいろいろあってというので、そんな子どもだましみたいなものというのを、特に男性がちょっと嫌悪感をというは最近よく言われる中でこの間ちょっと参加させていただいて、やっぱりちょっとそういうイメージ。その前のお話がすごく楽しかったので、そういう意味では楽しいお話を聞かせていただいて笑うというほうがよっぽどころ。本当に楽しいお話を、あそこまでこう楽しいお話ができる方は。

高橋委員 そうですね、あそこまでいかないかもしれないですけども、それに近い人材を育てていきます。

土屋委員 いきいき体操とかは結構広さが必要なのですけれども、これはもっと小さいところでできるので、今地域に広がっているカフェとかあるじゃないですか。ああいうところの少人数の十何人のところとか、あとやっぱりそのお食事会のときなんかは本当にそれをやるのにも時間が短いので、それが中心じゃないというところがいいと思います。

いきいき体操だと座ってできるけれども、やっぱりちょっと手を出したり足を出したりしなければいけないので、それに比べたらもっと簡単にできるというので。これ、リズムというか、音も単調で。だから、いいと思いますけれども、これはこれで。

久塚座長 でき上がったものというのはいい感じ。だから、あとは担当課の相手方です、NPOのほうが作品はああいう形になったけれども、主体を担っているところがどうも心配だという。

高橋委員 実際に地域に出向いてやってくださるときは何人も人を連れてきてくださるのです。

久塚座長 せっかくご発言聞くと、いろんな思いがあってつながってきたということなのけれども、それ下手するとこれをして、次はこれをして、次は次の助成金でとなって

しまうのです。

　　だけど、外からそう見えても、NPOの頭の中では次の課題を探して、お金がとれそうなものというのを探しておられるのだと思うのです。NPOは必死で生き残らなければいけないから。だから、違うテーマに近いようなものに見えたり、違う場所のように見えたりするという形になっているから、それはそれでいいのだけれども、あそこはああいうNPOみたいな形になっていただくとありがたいとは思いますがけれども。

　　及川委員　やはりちょうど私でも思ったのですけれども、新宿区というのはごっくんリーダーさんが広がるに当たって町内会とか、すごくやる気のある高齢の方というのは、土壌はすごくできていて、割と発信力のある人が多いのでしょうか。

　　今、私の周りではこの問題の中では町内会のちょっと連携がないとか、そういう声がちょっと多かったので、PTA活動も集まったり、集まらなかったりする。ただ、先ほどのお話を聞くと熱心な方がいらっしやったり、リーダーの中でも67名。実際もうちょっと多いとはおっしゃっていたのですけれども、そういうのは新宿区というはあるのでしょうか、土壌として。

　　地域コミュニティ課長　新宿区は200町会自治会があつたりするので、その中で一生懸命取り組むところとそうでないところは、それはもう温度差がかなりあるのですけれども、ただ月に1回町会自治会の連合会というのがあって定例会をやっているのです。そうしたところでさまざまな地域課題とか行政からの提案というのを議論する場を設けていまして、ですからそういったところで説明して、どんどん地域に広げていったり、町会にも意識を高めていくというのはできるのかなと思います。

　　及川委員　トップダウンばかりではなくて、新宿区の中では下からの力が強いから、あとはでは目標を伸ばしという。

　　土屋委員　でも、それは町会、自治会からとかじゃなくて、やっぱりラジオ体操の会だったりとか、町会、自治会の単位じゃないです、あの地域の。

　　だから、もう結構高齢の方がいろんないきいき体操のリーダーもやっぺらっしやるのですけれども、だれかのためになりたいというところで、自分が生き生きしてくるというところでリーダーさんになる方が結構多いのかなと思って。

　　だから、そういう意味ではやりたがる、リーダーになりますというふうに手を挙げる人が結構多くて。ただ、若い方ではないです。

　　伊藤委員　一言、高齢者の意識は独居の人、非常に高い。というのは、自分がしっかり

しないと、遠くにいる息子だとか娘だとかに迷惑をかけてしまうから。だからこそ自分がしっかりしていないといけないという意識は持っているわけ。

だから、今言ったようなこういう体操やなんかだとやるのです、高齢者は本当に。

久塚座長 いや、やっぱり土屋さんがおっしゃったみたいに40、50のときに真ん中にいて主体になっていったというのは、会社とか自営業で絵にかいたように見えていたのが、だんだんそうじゃなくなってくるというのが喪失というか、失うというか。

だから、何か町内会という言葉とかそういう言葉じゃなくて、自然にあなたのおかげというような場所づくりができるとやるのです、大体。それをお役所が呼びかけて、高齢になっても地域の主体であるために講習会みたいにするとかやっぱりだめだ。

やっぱりみんな出たがりですから。出たがりというか、気持ちの中では私はここにいますと。

吉田委員 男性のサロンというのをご意見が出たので仕掛けたのです。そしたら男性はやっぱりたくさん結構来てくれています。そうやってやっぱりある程度社協としてもそういう意見があったときに何とかしなきゃだめだと。男性は特に、皆さん、元気です。

久塚座長 やっぱりうちの私の家のようなあれでも、名誉教授になって70を超えた人がやっぱり図書館に来て、もう授業をしなくていいのに来るわけです。来るだけじゃなくて、例えばことし退職した人が2年生なんかにか声をかけます。先生、お久しぶりですねと。先生の授業を1年のときにとりましたみたいな話になると、やっぱりやる気が出るわけです。本当に出なくていいのだけれども出てしまうわけです。

それは教員だったらそうだろうし、あるいはもうちょっとでっかい意味で言うとあなたが私の心の中にありますみたいな瞬間、瞬間というのはそれぞれ記憶しているので、もう要らない人ではなくて、やっぱりそんなことを覚えているのだとか、自分のことは大事なのだろうと自分自身で自己否定にならないような、マイナス点にならないように自分で自分の点数を上げることができるような場所を、チャンスというのがあると随分いいなどは思います。

及川委員 今思い出したのですけれども、九州のある男性の方が、九州のほうで自分の父親、80とか70後半の方たちに会うと、すごくおじいさんという感じなのだけれども、自分が働いている新宿区の上の方というのはすごく若々しいというふうにおっしゃっていたのを思い出して、今後もツールを使う方がやっぱり連携をして、そこで利用しているご高齢の方が生き生きできるというのはすばらしい仕組みだなと思います。

伊藤委員 あとこれ一つ、これは提案だけれども、この新宿のごっくん体操、歌があるじゃない。だけど、この『色とりどりの道』というテーマだよね。新宿の歌として一本立ちしてもいいわけです、これ。

高橋委員 中身は新宿の歌なのです。

伊藤委員 ねえ、そう、そう。だから、これを一步立ちしてみんなが歌えるような歌にしちゃうのよ、幼稚園から。歌をこれ、『色とりどりの道』ということでごっくん体操のそこは抜きにして、もう。そうするとやはりそれが小さいときから親しんでいくと、おばあちゃんが。さっきだれか言っていたけれども、教えられるし。それと、おばあちゃん、こういうふうなのをやったほうがいいのだよと。僕たちは歌でやっているけれども、新宿にいるといろんな道があるのだねという。

久塚座長 サブタイトルで「新宿区ごっくん体操の歌」と書いているけれども、『色とりどりの道』という歌というふうにとちょっと独立させて活用する方法もある。

高橋委員 このサブタイトルを「新宿ごっくん体操の歌」というのにしたのはそういう意味もあって、『色とりどりの道』という一つの歌なので、この歌だけでもいいでしょうという意味も込めているのです。実はごっくん体操なので。歌っているだけでもう体操になっているのだよという仕組みをここに込めたのです。

久塚座長 しかし、そんなにうまいぐあいにいなくてもいい。流した瞬間にごっくん体操とお年寄りたちは感じてしまうと。

高橋委員 そうですね。歌詞だけ読むとあまりごっくん体操っぽくはないと思います。パタカラ、パタカラは出てきてしまいますけれども、結構。

久塚座長 いや、だからさっき発言させてもらったみたいに、ああいう場所でああいう開いてやるのでちょっと恥ずかしいみたいな意識を持つのだけれども、この音楽が先に入っていて、ああ、こういうときに使われているのかとなるとやっているのだと思うのです。

伊藤委員 盆踊りのときに使ったりとか、今話をしたけれども。

高橋委員 ありがとうございます。

及川委員 小学校でも口内衛生とかの時間がありますよね。そこで一緒に、うちの小学校でも近所の歯科衛生士さんたちがいらっしやって毎年。

関口委員 歌だけで効果はあるのですか。

高橋委員 そうです。思い切り口を大きくあけたりして発音する。

関口委員 ああ、では体操はあれば。

高橋委員 両方やったほうがいいです。ここの大胸筋とかこの辺の筋肉も嚙下に関係があるので、この体操をしたほうがいい。

関口委員 庁内の放送とかには流すのですか。「先ず隗より始めよ」なので、人様をお願いするなら、まず自分たちが実践してやるというのが。

高橋委員 健康部では昼休みにやっていますけれども、有志で庭に出て。

関口委員 区役所の職員さんも相当な人数いらっしゃるわけですから、その人たちがまずごっくんリーダーになったっていいわけなので。

及川委員 そうしたら防災のほうのリーダーも。

関口委員 まあ、まあ、その手の話が非常に多いので。みずからやるという姿勢もある意味協働。

高橋委員 そうですね、ありがとうございます。

久塚座長 いや、関口さんの言うとおりのことです。ここで自分たちがやっているのと、これって何という感じになってくるし。団体には頑張ってもらいたいですね、本当に。

関口委員 確かに自己財源を稼いでいただいて、だから補助金依存だけじゃない体制を。

久塚座長 よくわかりました。1年目、お疲れさまでございました。いや、随分よくなりました。

ということで、ヒアリングが終わった後の意見交換ももうこんなものでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚座長 では、1点だけ、事務局から、どうぞ。

事務局 評価のスケジュール表を説明します。最初なのですがけれども、本日の評価書につきましては7月5日を期限ということで、それ以前にデータの書式を送らせていただきますのでご提出をお願いします。7月5日が期限です。

評価書の提出時にコメントを書いていたものを事務局で集約しまして、評価書の報告案を作成させていただきます。できれば次回の会議、第7回協働支援会議が7月20日になるのですがけれども、その前に事前にメール等で委員の皆様の案をメールで送らせていただきまして、事前に確認いただけるようなスケジュールで進められればと考えています。

その上で次回の支援会議で評価点の決定と報告書案について、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思っています。

その後、8月3日に次の次です。第8回協働支援会議がございまして、こちらで最終的な報告書のまとめをさせていただきまして、9月10日に報告書を区長に提出する予定でございまして。

久塚座長 8月も1回だよ。

事務局 そうです。次が7月20日で、その次が8月3日。提出は9月10日です。

久塚座長 はい。ということです。忙しい中すみません。きょうのものを5日までと大変だと思いますけれども、よろしく願いいたします。では、お疲れさまでした。

事務局 ありがとうございます。

— 了 —